

2024年6月期 決算補足説明資料

2024年8月9日
株式会社オカムラ食品工業 (2938)



I. 当社グループについて

II. 2024年6月期 通期実績

III. 2025年6月期 計画

IV. その他の取組み

V. 参考資料

I. 当社グループについて

(1) 会社概要

(2) 外部環境 ~生食用サーモンの大きな可能性~

(3) 当社グループの特徴と強み

(4) 今後の成長戦略



| | |
|--------|---|
| 社名 | 株式会社オカムラ食品工業 (Okamura Foods Co., Ltd.) |
| 本社 | 青森県青森市八重田1-6-11 |
| 代表者 | 代表取締役社長兼CEO 岡村 恒一 代表取締役副社長 八木康次 |
| 設立 | 1971年8月 |
| 資本金 | 1,093百万円 (2024年6月末) |
| 従業員数 | 852名 (連結 2024年6月末) |
| 連結子会社数 | 9社 |

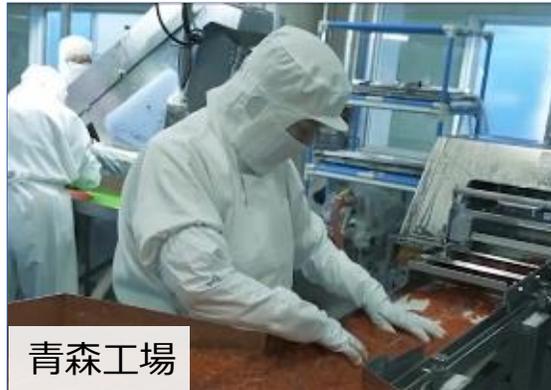
事業内容及び売上構成

サーモンのグローバルサプライチェーンを網羅する4つの事業を展開

養殖事業 売上高：50億円 セグメント利益：7億円

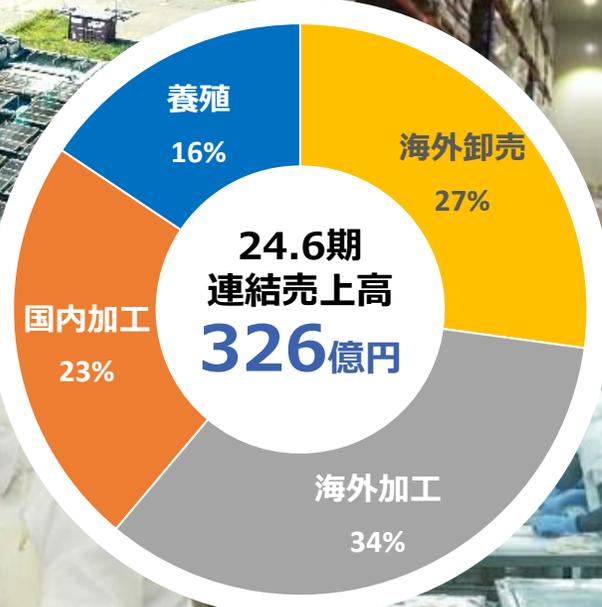


海外卸売事業 売上高：88億円 セグメント利益：2億円



国内加工事業 売上高：76億円 セグメント利益：10億円

海外加工事業 売上高：110億円 セグメント利益：10億円



主要製品紹介

セミドレスから加工品まで幅広くラインナップし、売上の90%以上がサーモン関連製品

養殖事業



青森サーモン生鮮セミドレス
(頭付き内臓取り)

国内加工事業



Musholm A/S魚卵原料から
製造したイクラ製品

海外加工事業



青森サーモン
生ハラスライス



外部仕入原料のサーモン
ハラス寿司スライス製品



青森サーモンフィーレ



第一工場で製造した数の子製品



オカムラキッチン(市販用焼煮魚商品)

沿革

食品加工業からスタートし、サーモンのサプライチェーンの担い手に成長

設立

魚卵・成魚の加工

1971年

1990年

ムソン社

デンマークのMusholm A/Sから
冷凍トラウト魚卵を輸入開始

ベトナム

パートナー工場で
寿司ネタ用サーモン加工開始

2003年

2005年

養殖事業

Musholm A/Sを
M&A

コールド・チェーン

シンガポールに販売拠点設置
超低温倉庫、低温配送車を導入

2015年

2017年

国内初の生食用サーモン大規模養殖

日本サーモンファーム株式会社 (JSF) 設立

ミャンマー

自社工場で寿司ネタ用サーモン加工開始

ASC認証※

国内サーモン養殖事業で
初の認証取得

2019年

2023年

東証スタンダード
市場に上場

国内加工事業

海外加工事業

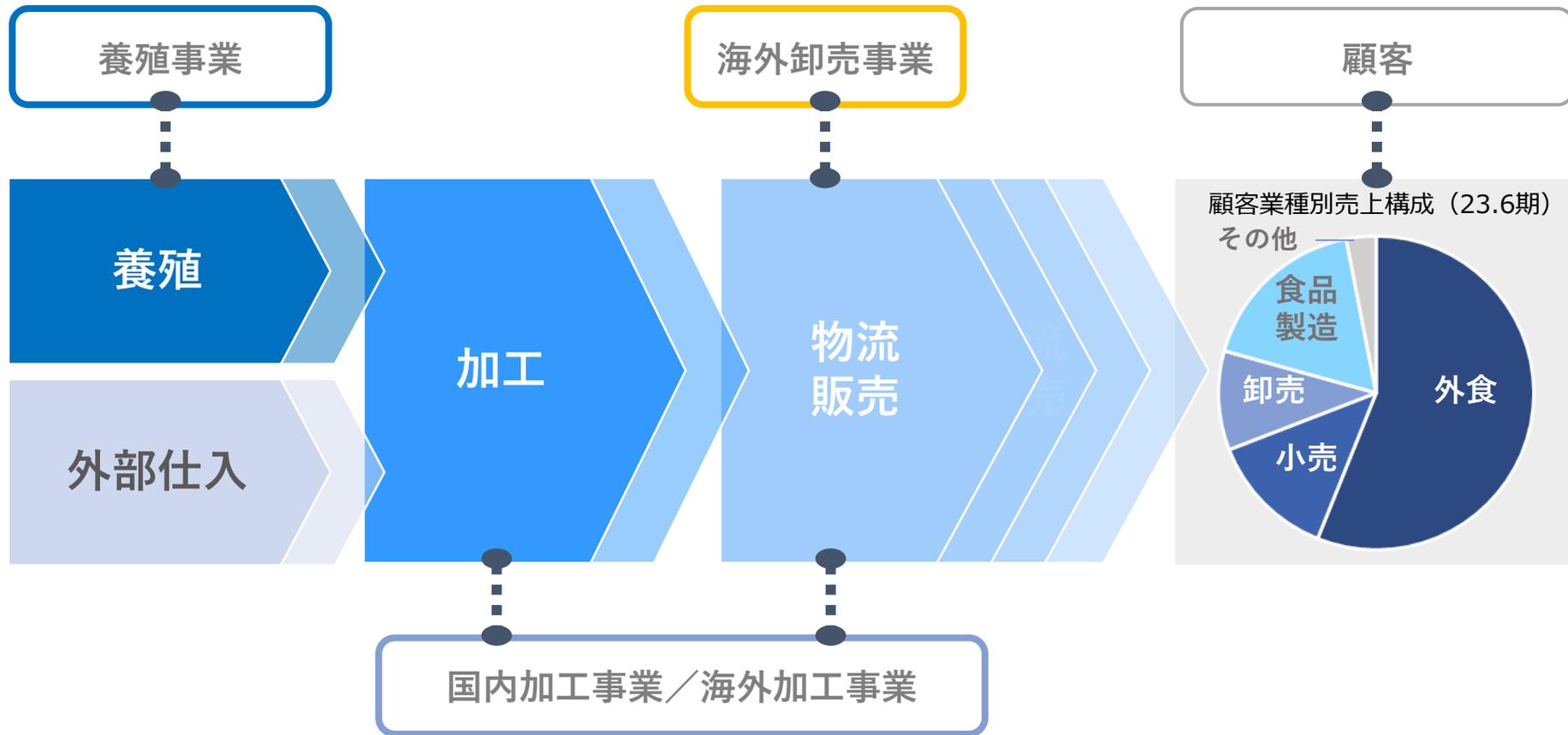
養殖事業

海外卸売事業

※ 水産養殖管理協議会 (Aquaculture Stewardship Council) が管理運営する養殖に関する国際認証制度で、養殖場が自然環境の汚染や資源の過剰利用を行っておらず、その養殖事業に持続可能性が認められることを認証するもの

事業の全体像

サーモンを中心とした垂直統合型ビジネスモデルで、グローバルに事業を展開
養殖事業の更なる拡大により、安定したサプライチェーンの実現を目指す



拠点・グループ

世界8ヶ国に拠点・グループ会社を展開

デンマーク

Musholm Loejstrup Dambrug



ミャンマー

Okamura Trading Myanmar



タイ

Okamura Trading (Thailand)

● 養殖事業拠点

● 国内加工事業拠点

● 海外加工事業拠点

● 海外卸売事業拠点

東京

オカムラ食品工業東京本社

青森

オカムラ食品工業

日本サーモンファーム



台湾

Okamura Trading Taiwan

ベトナム

Okamura Trading Vietnam

シンガポール

Okamura Trading Singapore

マレーシア

Xenka Trading (M)



連結子会社9社

- 日本サーモンファーム株式会社
- Musholm A/S
- Loejstrup Dambrug A/S
- Okamura Trading Myanmar Co., Ltd.
- Okamura Trading Vietnam CO., Ltd.
- Okamura Trading Singapore Pte., Ltd.
- Xenka Trading (M) Sdn. Bhd.
- Okamura Trading Taiwan Co., Ltd.
- Okamura Trading (Thailand) Co., Ltd.

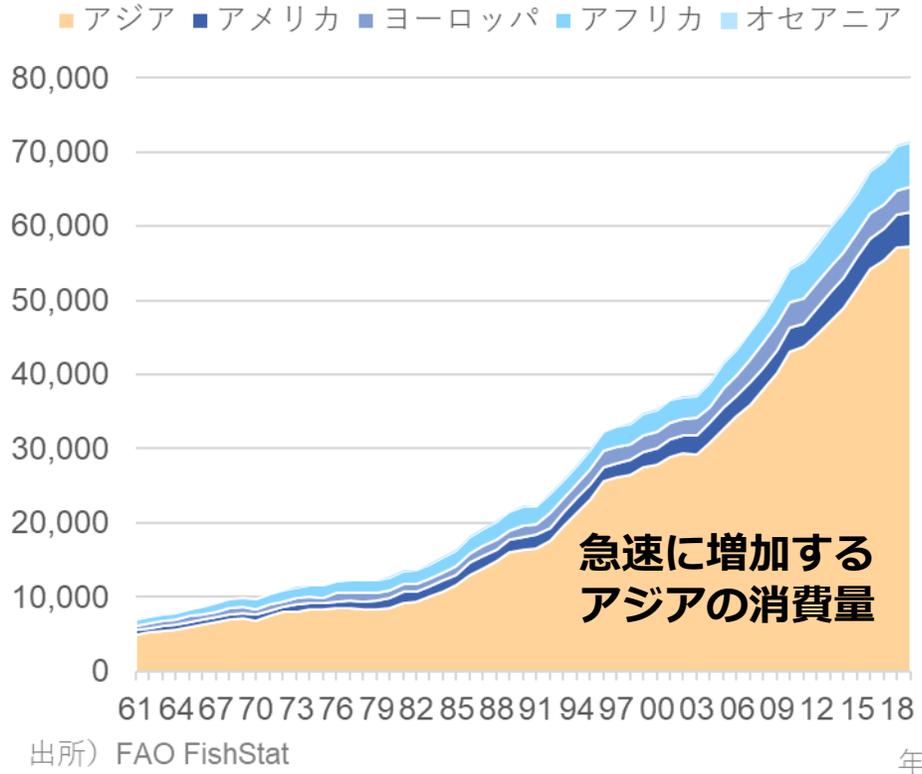
I. 当社グループについて

- (1) 会社概要
- (2) 外部環境 ~生食用サーモンの大きな可能性~
- (3) 当社グループの特徴と強み
- (4) 今後の成長戦略

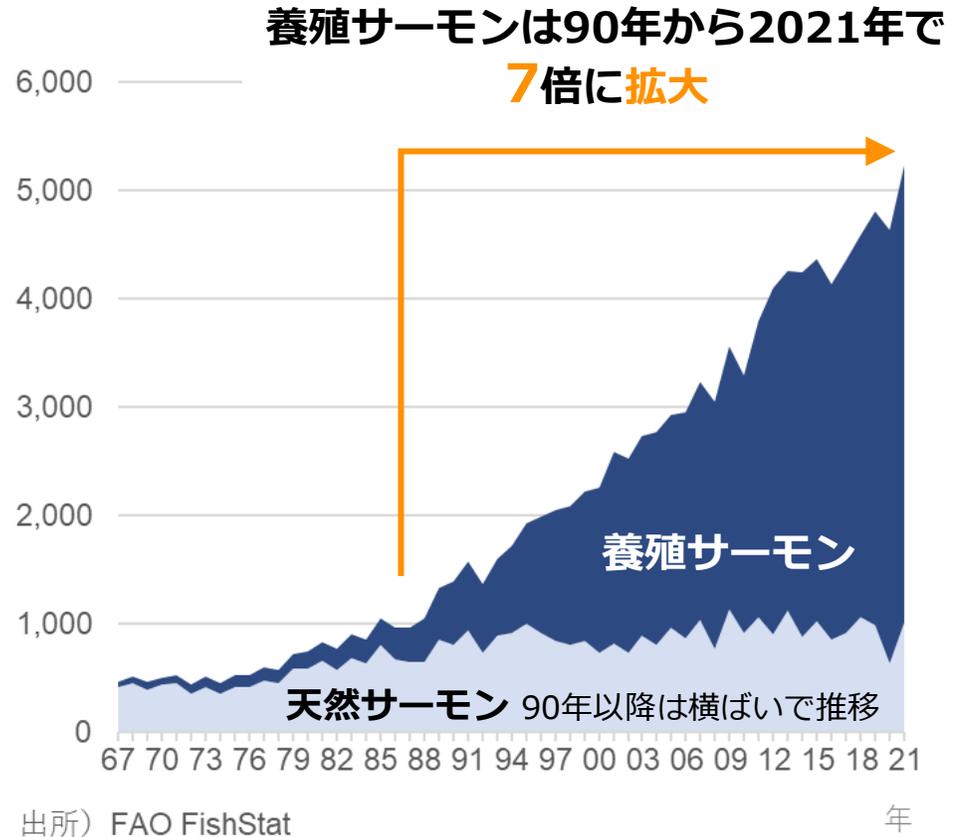


- 需要が急拡大するアジア市場がけん引役となり、養殖サーモンは全世界で大きく伸びてきた
- しかしながら養殖大国（ノルウェー、チリ）における養殖適地の開発は既に概ね行われていることから、今後の養殖量拡大のペースは、これまでとは異なってくると予想される

□ エリア別魚類需要の推移 (千トン)

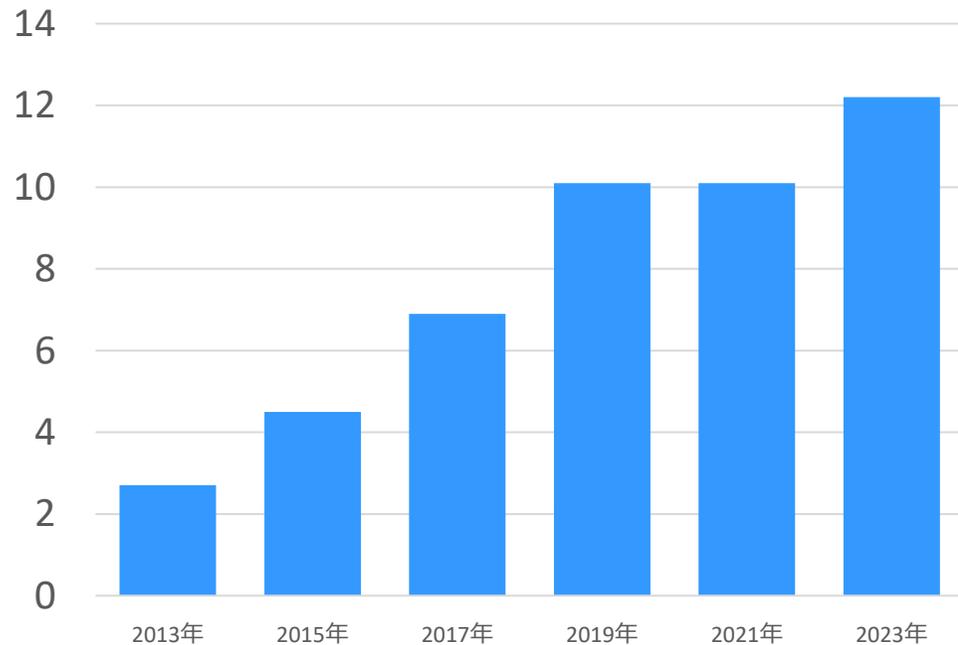


□ 世界のサーモン生産量の推移 (千トン)



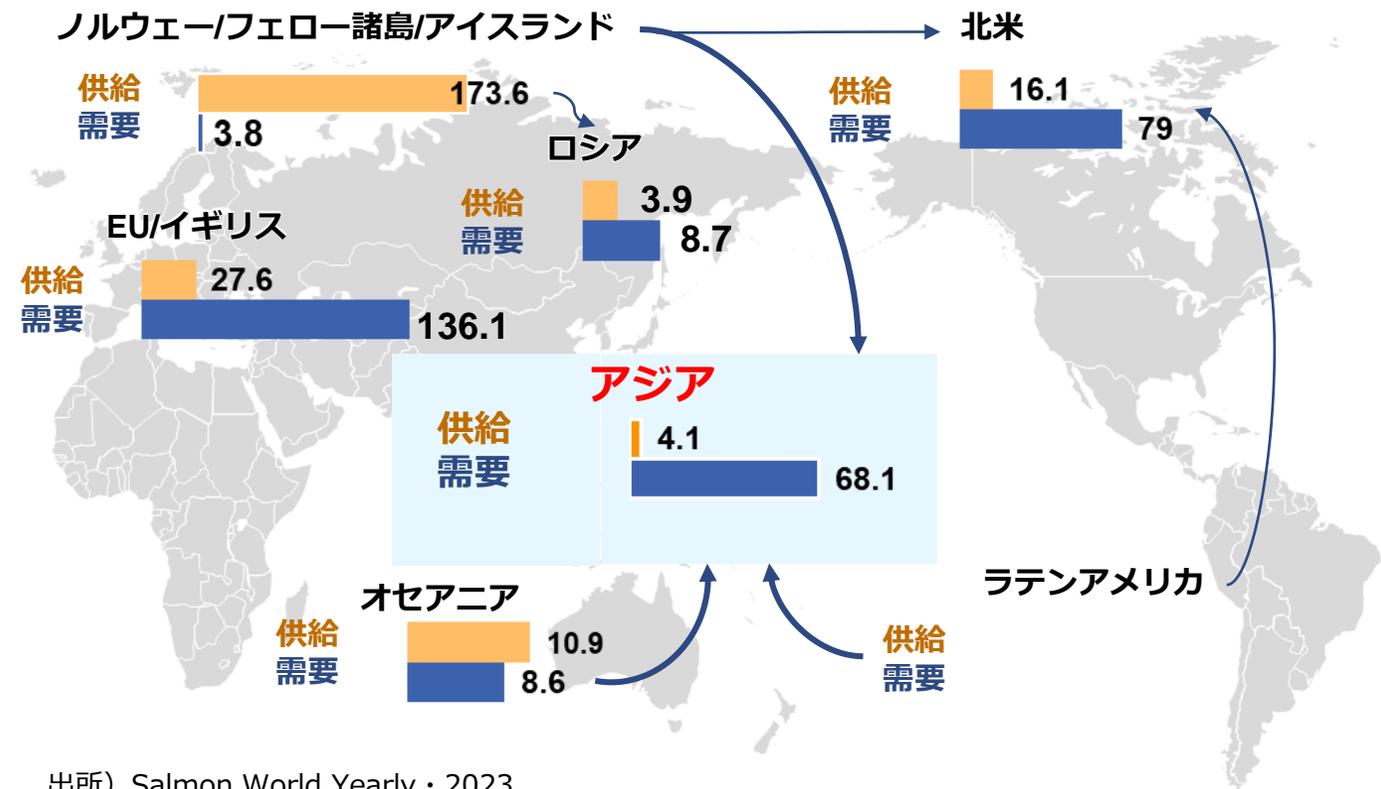
- アジア全体の日本食レストランの店舗数は12万店を突破。需要は引き続き拡大
- それに対して、養殖大国である北欧・南米からの供給の大きな伸びは今後期待しにくい

□ アジアの日本食レストラン数の推移（万店）



出所) 外務省調べにより、農林水産省において推計

□ 世界の養殖サーモン供給量と市場規模（万トン）



出所) Salmon World Yearly・2023

I. 当社グループについて

- (1) 会社概要
- (2) 外部環境 ~生食用サーモンの大きな可能性~
- (3) 当社グループの特徴と強み**
- (4) 今後の成長戦略



強み①

生食用サーモンの大規模養殖を実現

強み②

海外卸売における顧客の課題を垂直統合モデルで解決

強み①：生食用サーモンの大規模養殖を実現 ～資本の論理では解決できない2つの課題～

1

地域社会のバックアップ°

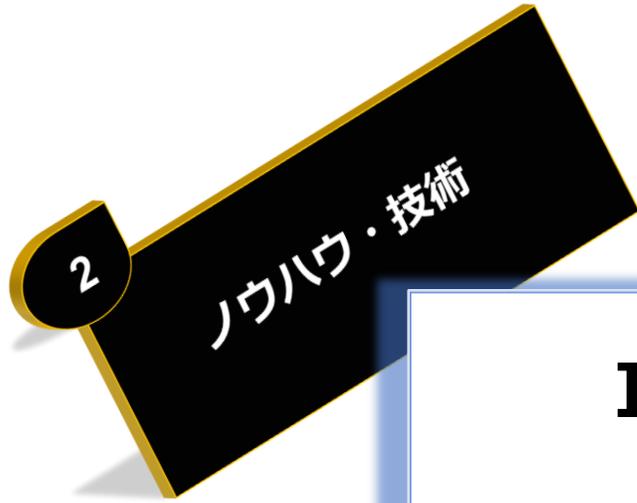
- ・ 水利権
- ・ 区画漁業権

2

ノウハウ・技術

国内の大規模養殖に立ちはだかる**2**つの課題

強み①：生食用サーモンの大規模養殖を実現 ～「当社だからこそ」の強みで課題を克服～



I. **青森の企業だからこそ**可能になる
地元資源の活用

II. **デンマーク子会社を持つからこそ**得られる
養殖の先進技術

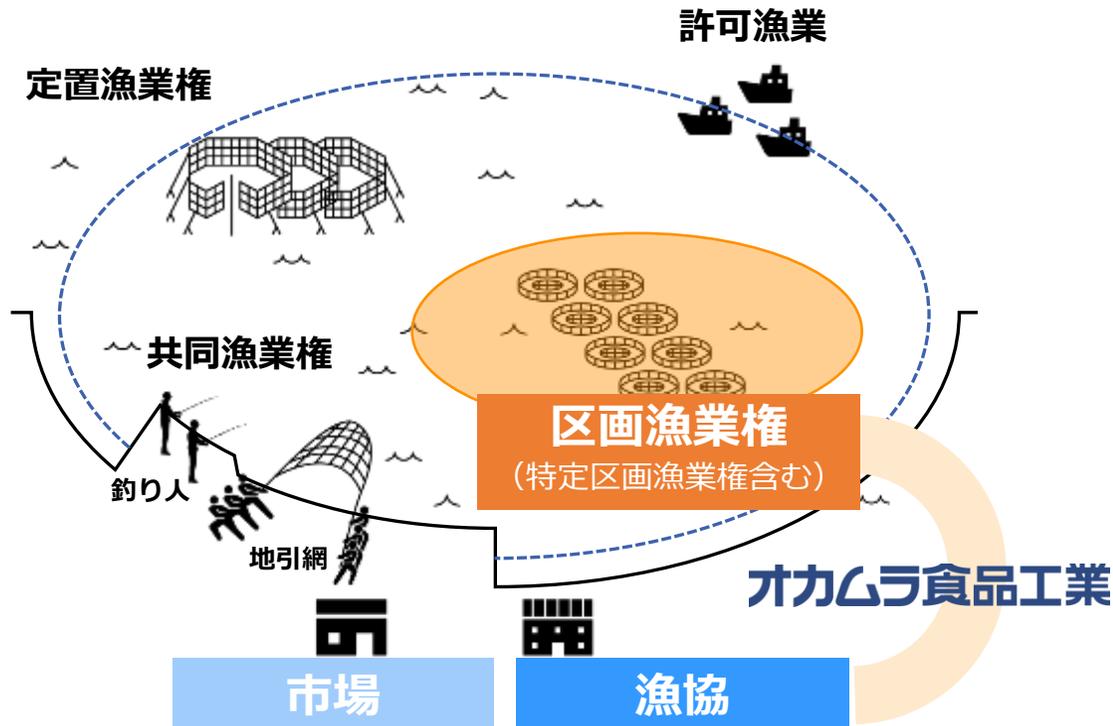
オカムラ食品工業

強み①：生食用サーモンの大規模養殖を実現 ～青森の企業だからこそ可能になる地元資源の活用～

サーモン養殖に適した青森の海で、地元のサポートを受けながら養殖事業を拡大

社会環境

地元漁協の組合員として区画漁業権を行使



自然環境

青森はサーモン養殖に適している

海況

- 17度以下の海水温
- 適度な潮流

オカムラ食品工業

事業環境

- 養殖を促進する国策の後押し※

※ 2020年施行「改正漁業法」

強み①：生食用サーモンの大規模養殖を実現 ~デンマーク子会社を持つからこそ得られる、養殖の先進技術~

大規模設備を用い、かつ、孵化から成魚まで一気通貫した生産体制を構築

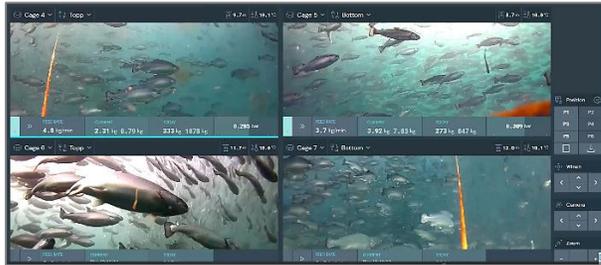


強み①：生食用サーモンの大規模養殖を実現 ~デンマーク子会社を持つからこそ得られる、養殖の先進技術~

事例①：日本初のバージ船を導入し、遠隔自動給餌で安定的な給餌や給餌コスト低減を実現

● 遠隔自動給餌

- 天候に左右されず、安全かつ最適なタイミングで給餌
- 水中モニタリングにより、魚群解析
- 食欲旺盛となる水温を把握
- 自動で酸素供給



● バージ船

- 1km~2km沖合の生簀に隣接
- 250tの配合飼料（2週間分）を貯蔵
- 発電機能を有する



● FCR（増肉係数）*1 _____ **3%改善**



● 養殖期間（12月~6月）の給餌日数 _____ **24%up**



● 給餌人員数 _____ **80%down**



● その他のメリット

- 養殖現場の安全性が飛躍的に向上
- 一般社員やIT人材など、養殖人員の多様化
- 魚体の大型化

*1FCR：Feed Conversion Ratio 体重を1キロ増加させるために必要な餌の量を表す指標

*2ビフォー：22.6期実績、アフター：23.6期実績

強み①：生食用サーモンの大規模養殖を実現 ~デンマーク子会社を持つからこそ得られる、養殖の先進技術~

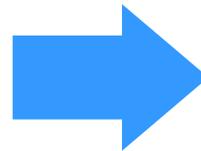
事例②：屋外循環式中間養殖場により、生産量拡大に向けたボトルネックを解消

デンマークの先進技術

- 高密度養殖技術体系
- IoT活用による酸素供給自動化システム
- ろ過システム



青森県今別町 循環式中間養殖場



中間養殖場の課題

水利権対策

自然災害対策

環境負荷対策

- 先進技術を導入した養殖場で課題を克服

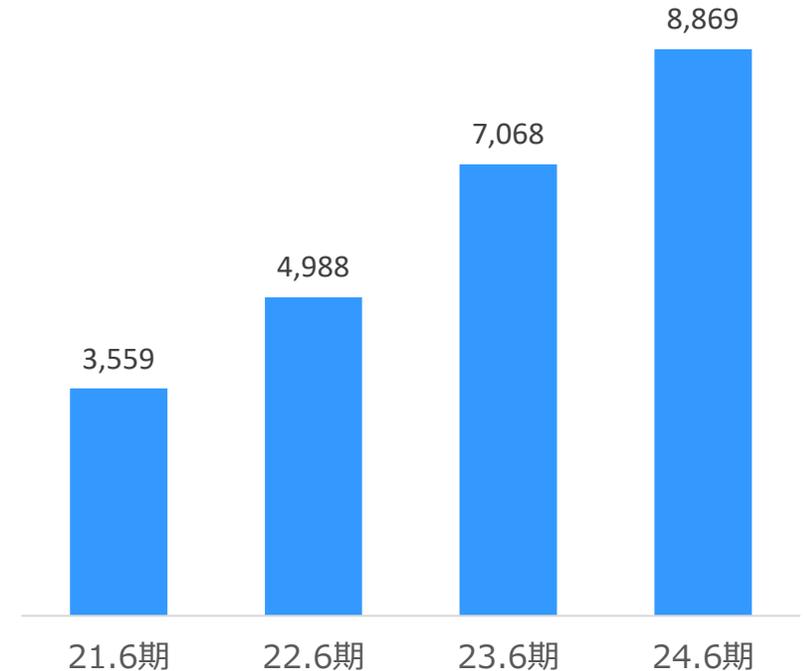
強み②：海外卸売における顧客の課題を垂直統合モデルで解決

日本品質と高い専門性が評価され、アジアの外食企業を中心に業績を拡大

アジアの顧客ニーズ（回転寿司チェーン、日本食レストラン、スーパー等）



□ 海外卸売事業 売上推移（百万円）



| 当社のソリューション | 垂直統合モデルの強み |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 日本品質 <ul style="list-style-type: none"> - 配送クオリティ - タイムリーな納期対応 - 安定供給 ■ 高い専門性 <ul style="list-style-type: none"> - カスタマイズ対応 - 多品種小ロット対応 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 原材料の安定確保 <ul style="list-style-type: none"> - 養殖による自社原料 ■ 加工機能 <ul style="list-style-type: none"> - 国内加工（青森） - 海外加工（ミャンマー、ベトナム） ■ 卸拠点 <ul style="list-style-type: none"> - シンガポール、マレーシア、台湾、タイ |

I. 当社グループについて

- (1) 会社概要
- (2) 外部環境 ~生食用サーモンの大きな可能性~
- (3) 当社グループの特徴と強み
- (4) 今後の成長戦略**



戦略①

国内のサーモン養殖量の拡大

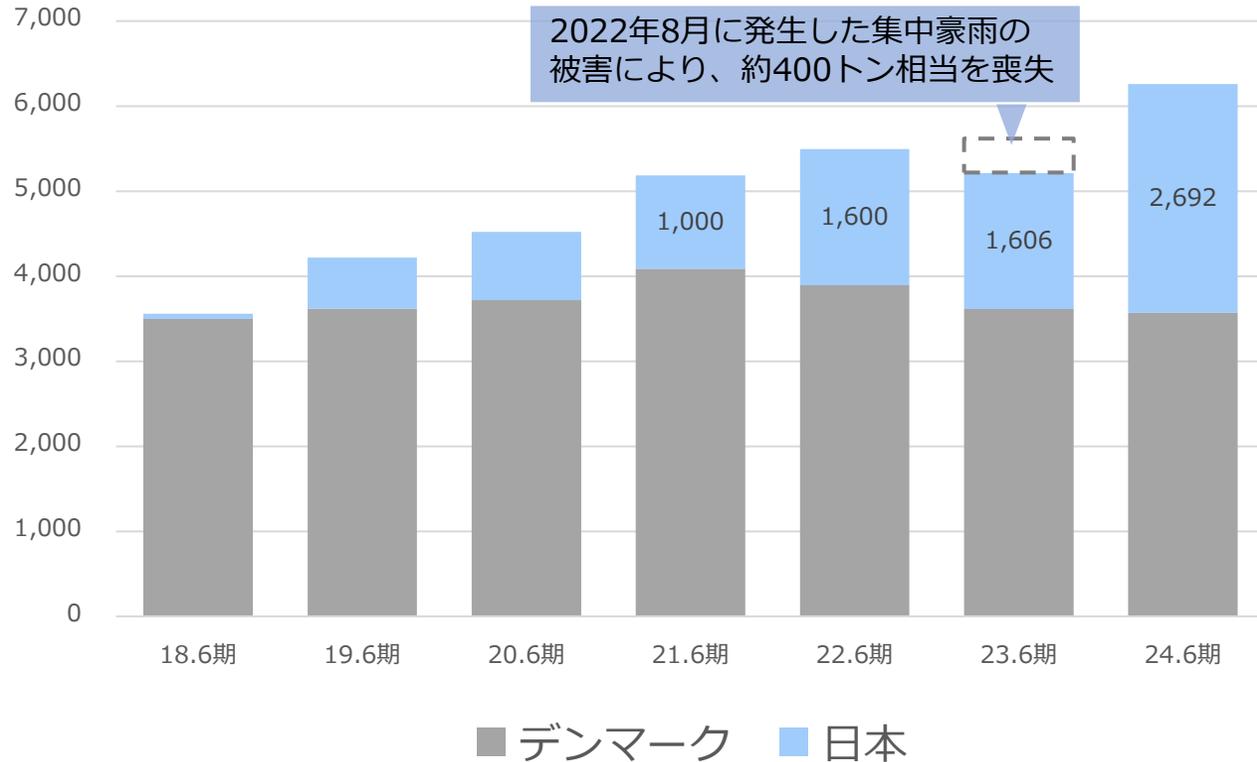
戦略②

アジア卸売事業の拡大

戦略①：国内のサーモン養殖量の拡大

IPOでの調達資金も活用し、養殖量拡大に向けた設備投資を加速させる

□ 国内外のサーモン生産量推移 (トン)



<24.6期の主な設備投資>

- 中間養殖場の拡張 (青森県)
- 海面養殖場の拡張 (青森県)



循環式中間養殖場 (青森県今別町)

戦略②：アジア卸売事業の拡大

事業エリアを拡大し、成長を続けるアジアの日本食マーケットの伸びをしっかりとキャッチ

1 商品提案力の強化

- 専門性の追求
 - ・ 人員増強

2 物流力の強化

- 卸インフラの増強
 - ・ 超低温コンテナ、配送トラック

3 カスタマイズ力の強化

- 工場リノベーション
 - ・ 多品種小ロット対応の強化

Ⅱ. 2024年6月期 通期実績



- 通期実績サマリー
- 成長のためのKPI
- 連結業績サマリー
- セグメント情報サマリー
- セグメント別売上高増減
- セグメント別営業利益増減
- 要因別セグメント利益増減（養殖事業）
- 要因別セグメント利益増減（国内加工事業）
- 要因別セグメント利益増減（海外加工事業）
- 要因別セグメント利益増減（海外卸売事業）
- 貸借対照表 増減サマリー
- 連結キャッシュ・フロー
- 棚卸資産の増減内容
- 養殖設備の状況
- 株主還元

通期実績サマリー

成長のためのKPI

国内養殖量

2,692トン 前期比+68%

- 個体の成長が進まず、期初計画数量2,910トンは未達であったものの、養殖能力の増強は予定通り進捗。

海外卸売事業売上高

前期比+18億円、+25%・・・88億円

- 市場の拡大を背景に伸張。
- 円安影響を除いても、+15%を達成。

連結売上高

前期比+37億円

- 国内養殖量の増大、サーモン価格の高止まり、海外市場の拡大、円安が主な増加要因。

連結営業利益

前期比▲6億円

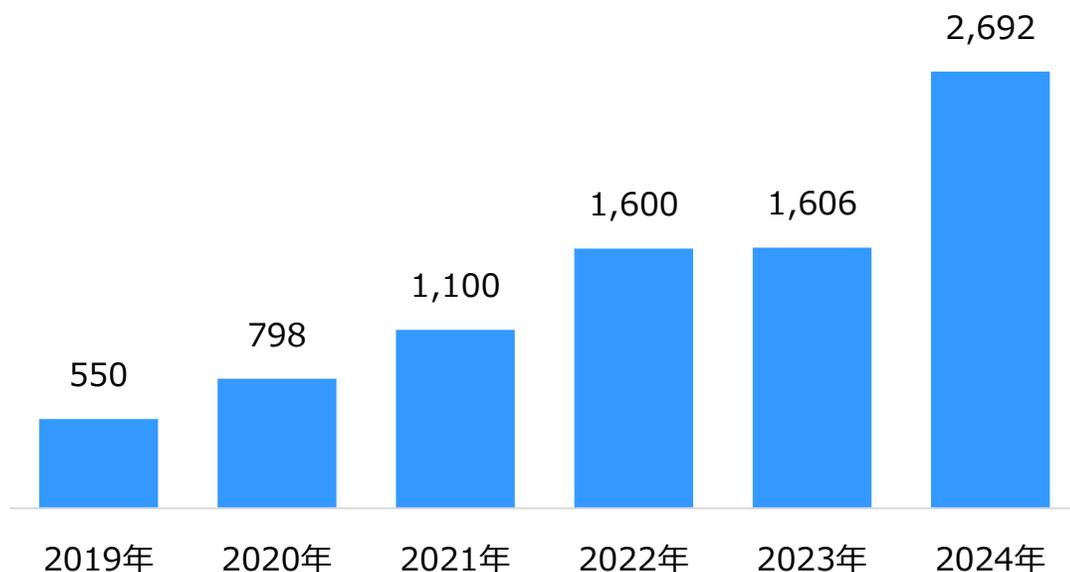
- 売上増はあったものの、国内加工事業と海外卸売事業の利益率低下が影響し、全体でも前年比で減益。
- 当期は魚卵相場が調整局面にあり、販売価格の低下に伴い国内加工事業の利益率は低下。
- 海外卸売事業の減益はヒト・モノへの先回り支出の影響が大きい。

成長のためのKPI (1) 国内養殖量の拡大

当社グループの成長ドライバーの一つである国内養殖量は、昨シーズン比1,086トン増の2,692トン。2023年10月に稼働開始した今別中間養殖場第2・第3水槽が養殖量拡大に寄与した。

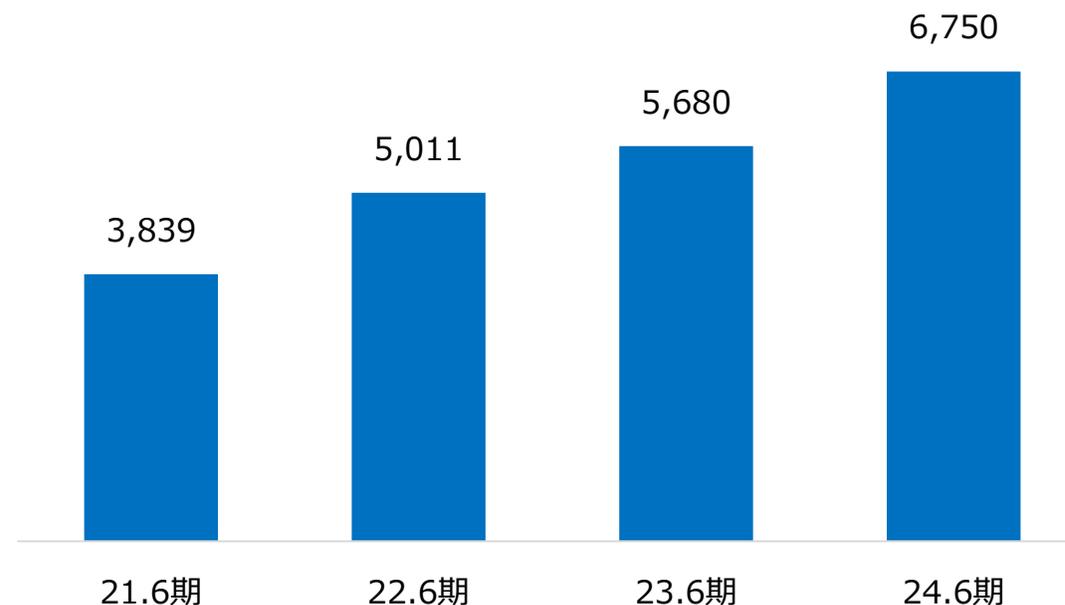
国内養殖量

■ 水揚げ量実績 (トン)



* 水揚げシーズンは4～7月

養殖事業売上高 (百万円)

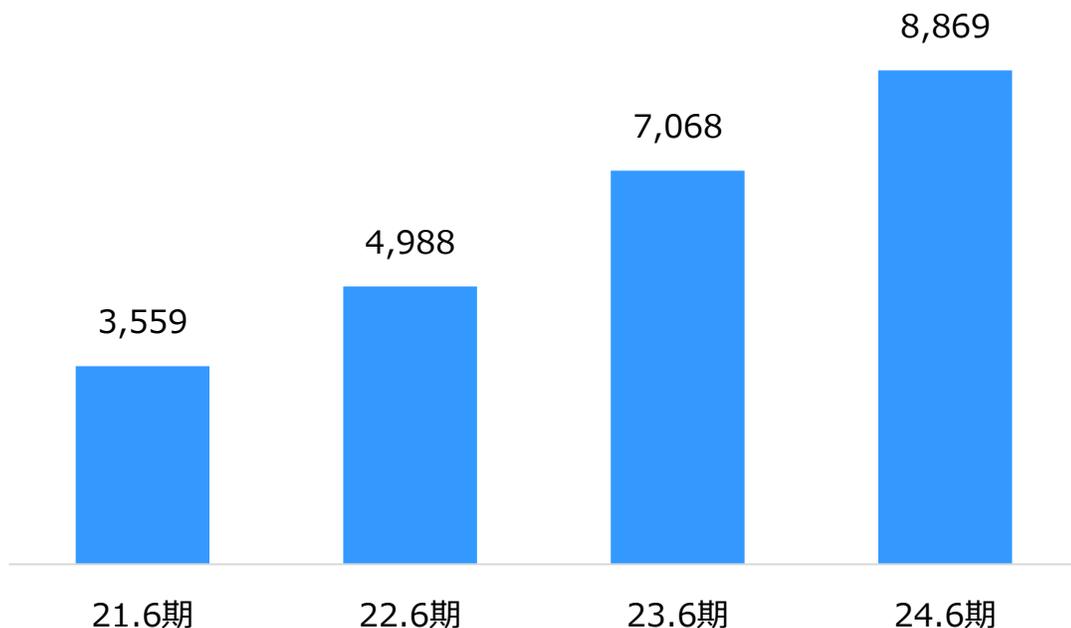


* デンマーク子会社 (養殖事業) の売上高も含む

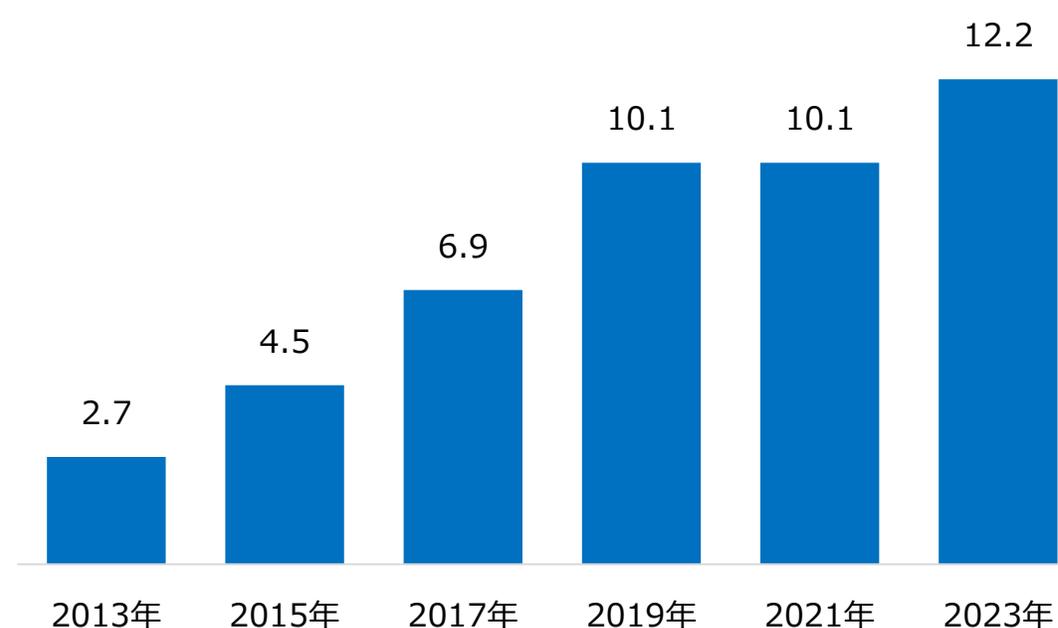
成長のためのKPI (2) 海外卸売事業売上の拡大

もう一つの成長ドライバーである海外卸売事業は、アジアにおける日本食市場の拡大を背景に順調に伸び、売上高は8,869百万円（前期比1,801百万円増、為替換算影響含む）となった。

海外卸売事業売上高（百万円）



アジアにおける日本食レストランの概数（万店）



(出所) 「海外における日本食レストランの概数(令和5年)」令和5年10月13日農林水産省
 「海外における日本食レストランの数(令和3年)」令和3年9月30日農林水産省
 「農林水産省における日本食・食文化の魅力発信による日本産品海外需要拡大事業の拡大の紹介」平成30年9月農林水産省
 「日本食・食文化の海外普及について」平成25年6月農林水産省

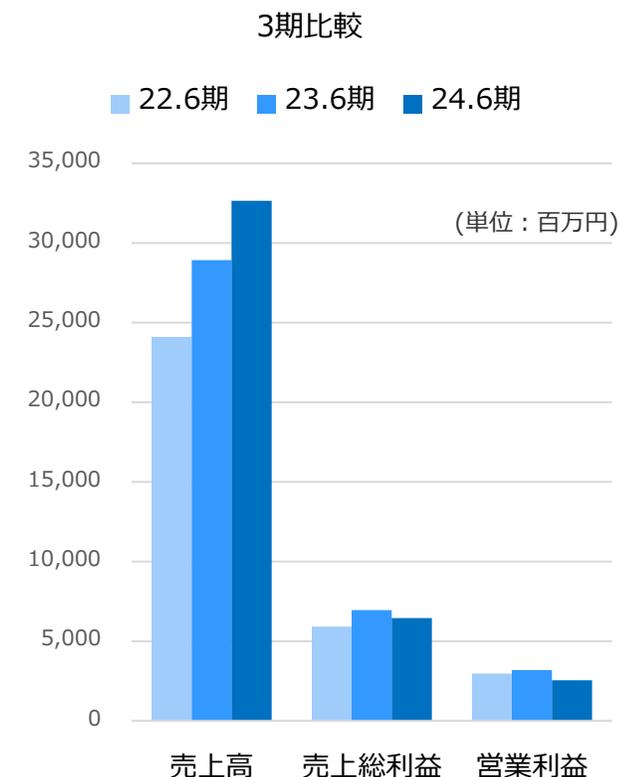
連結業績サマリー①

売上高は前期比37億円増。主な要因は、国内養殖量の増大、サーモン価格の高止まり、海外市場の拡大、円安等。

営業利益は、前期比6億円減。主な要因は国内加工事業と海外卸売事業の利益率低下。

(単位：百万円)

| | 22/6期 | 23/6期 | 24/6期 | 増減 | 増減率 (%) |
|---------------------|--------|--------|--------|-------|---------|
| 売上高 | 24,100 | 28,939 | 32,665 | 3,725 | 12.8 |
| 売上総利益 | 5,923 | 6,951 | 6,464 | △487 | △7.0 |
| 営業利益 | 2,961 | 3,187 | 2,548 | △638 | △20.0 |
| 経常利益 | 3,341 | 3,544 | 2,932 | △612 | △17.2 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 2,249 | 2,389 | 1,968 | △421 | △17.6 |

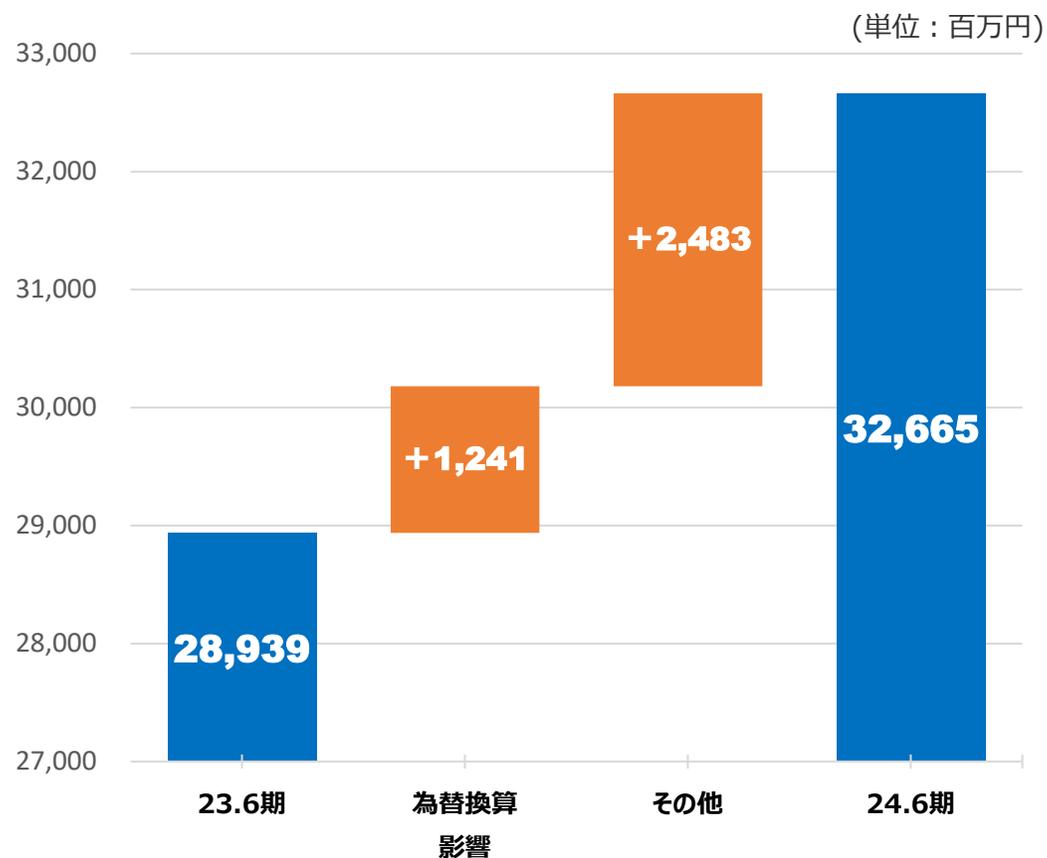


連結業績サマリー②

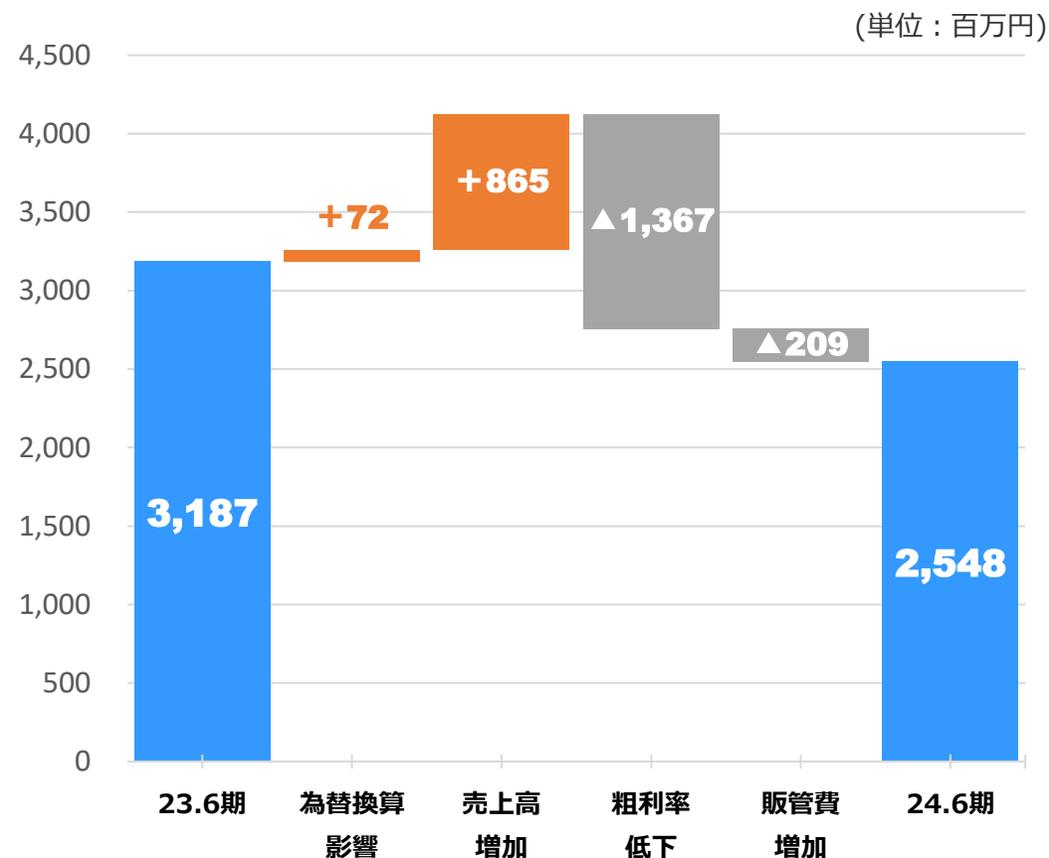
売上高は、円安による為替換算影響を除いて2,483百万円増加。

営業利益は、売上増による増益効果と粗利率の低下による減益効果が相殺され、638百万円減少。

連結売上高 増減要因



営業利益 増減要因



セグメント情報サマリー

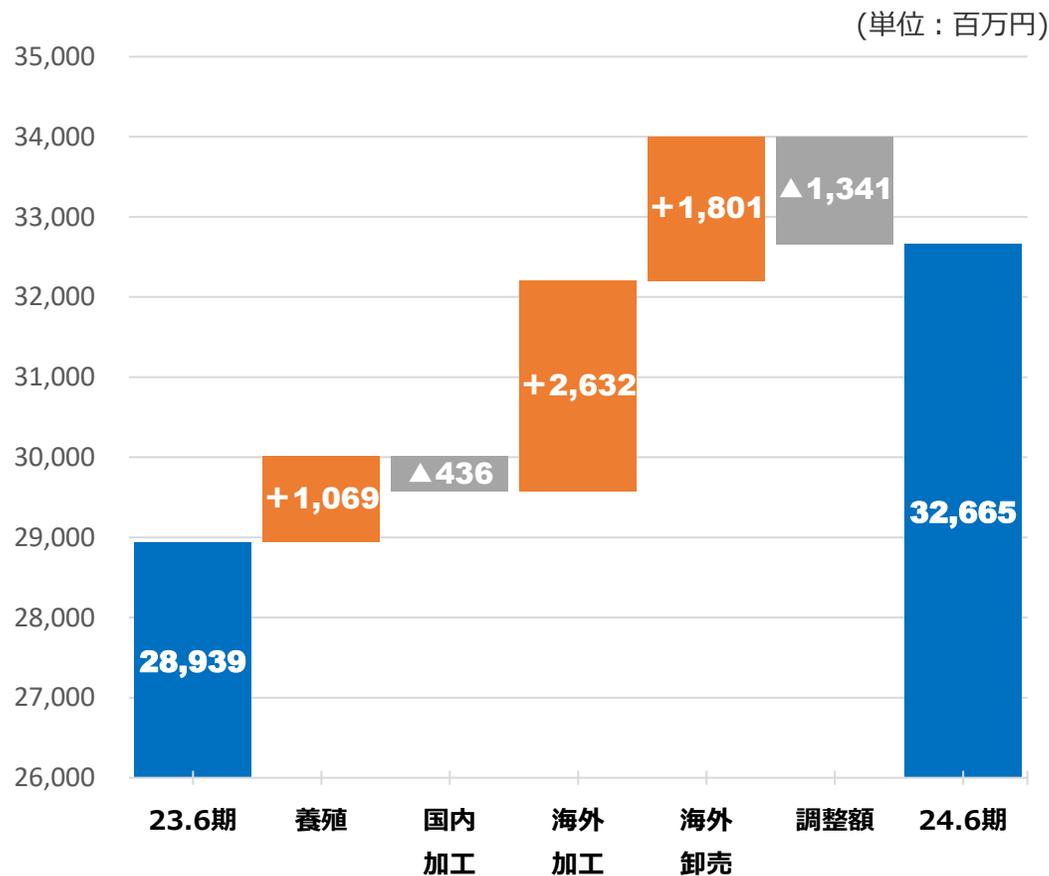
(単位：百万円)

| | 23/6期 | 24/6期 | 増減 | 増減率(%) |
|----------------|---------------|---------------|--------------|--------------|
| 売上高 | 28,939 | 32,665 | 3,725 | 12.9 |
| 養殖 | 5,680 | 6,750 | 1,069 | 18.8 |
| 国内加工 | 8,715 | 8,279 | △436 | △5.0 |
| 海外加工 | 12,623 | 15,255 | 2,632 | 20.9 |
| 海外卸売 | 7,068 | 8,869 | 1,801 | 25.5 |
| 調整額 | △5,148 | △6,489 | △1,341 | — |
| セグメント利益 | 3,187 | 2,548 | △638 | △20.0 |
| 養殖 | 813 | 772 | △40 | △5.0 |
| 国内加工 | 1,462 | 1,089 | △373 | △25.5 |
| 海外加工 | 1,085 | 1,064 | △20 | △1.9 |
| 海外卸売 | 518 | 254 | △263 | △50.9 |
| 調整額 | △692 | △632 | 59 | — |

| 増減の内訳 | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 為替差 | 実質 | 増減率(%) |
| 1,241 | 2,483 | 8.6 |
| 498 | 570 | 10.0 |
| — | △436 | △5.0 |
| 5 | 2,626 | 20.8 |
| 737 | 1,063 | 15.0 |
| — | △1,341 | — |
| 72 | △711 | △22.3 |
| 50 | △91 | △11.2 |
| — | △373 | △25.5 |
| △3 | △17 | △1.6 |
| 25 | △288 | △55.8 |
| — | 59 | — |

セグメント別売上高増減

セグメント別売上高増減



増減補足説明

養殖

前期比+1,069

- 国内養殖量増に伴う販売増や、円安による海外養殖事業売上の換算影響により売上高が増加した。

国内加工

前期比△436

- 高騰相場からの調整局面で販売価格が低下。販売数量は全体で伸びるも価格低下の影響の方が大きく、減収。

海外加工

前期比+2,632

- 世界的にサーモン相場の高止まりが続く中、コロナ禍後の市場回復もあり需要は堅調に推移。なお、増加分にはグループ内売上も多く含まれており、これは調整額で消去される。

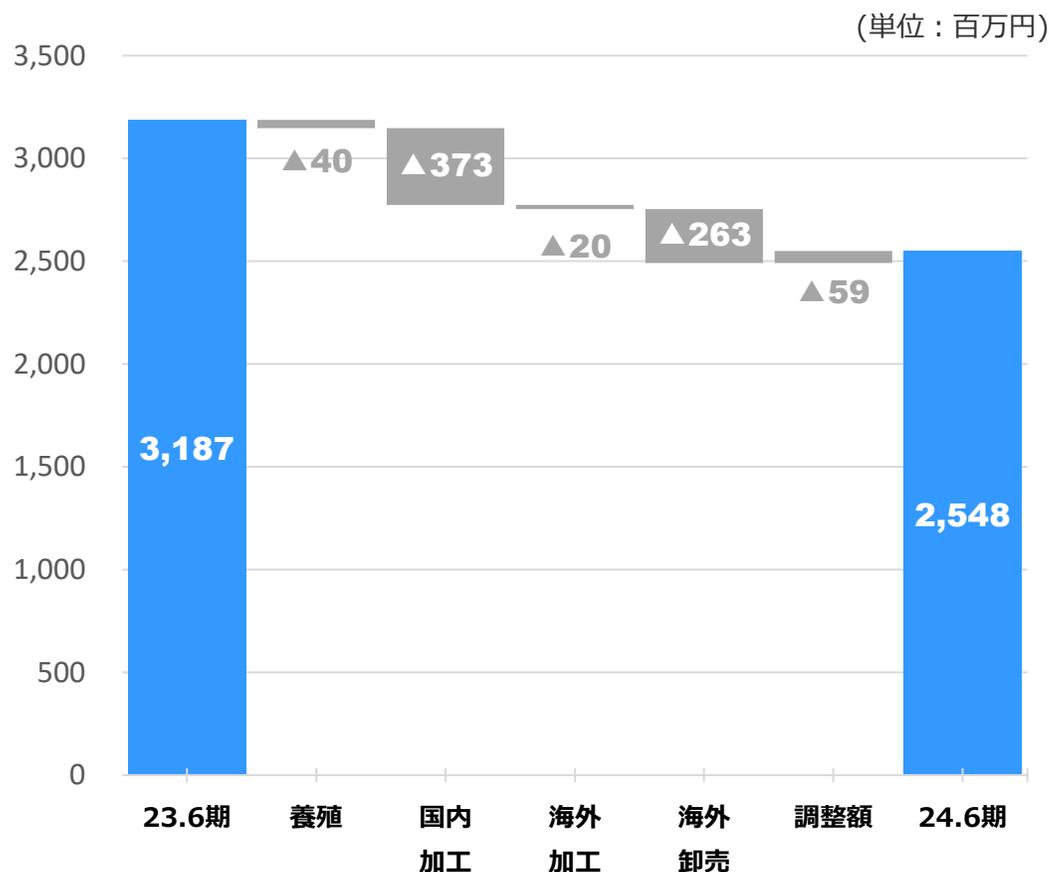
海外卸売

前期比+1,801

- 引き続き需要拡大傾向が継続。

セグメント別営業利益増減

セグメント別営業利益増減



増減補足説明

養殖

前期比△40

- 国内養殖で増産による利益増加はあった一方で、海外養殖では魚卵相場の調整や養殖コスト増の影響で利益率低下。

国内加工

前期比△373

- 当期は魚卵相場が調整局面にあり、販売価格低下の影響で原価率（材料費・労務費・経費）が上昇し、国内加工事業の利益率は低下した。

海外加工

前期比△20

- 売上増の一方で、前期に比べれば原料高の販売価格転嫁は十分ではなく、利益率が低下。

海外卸売

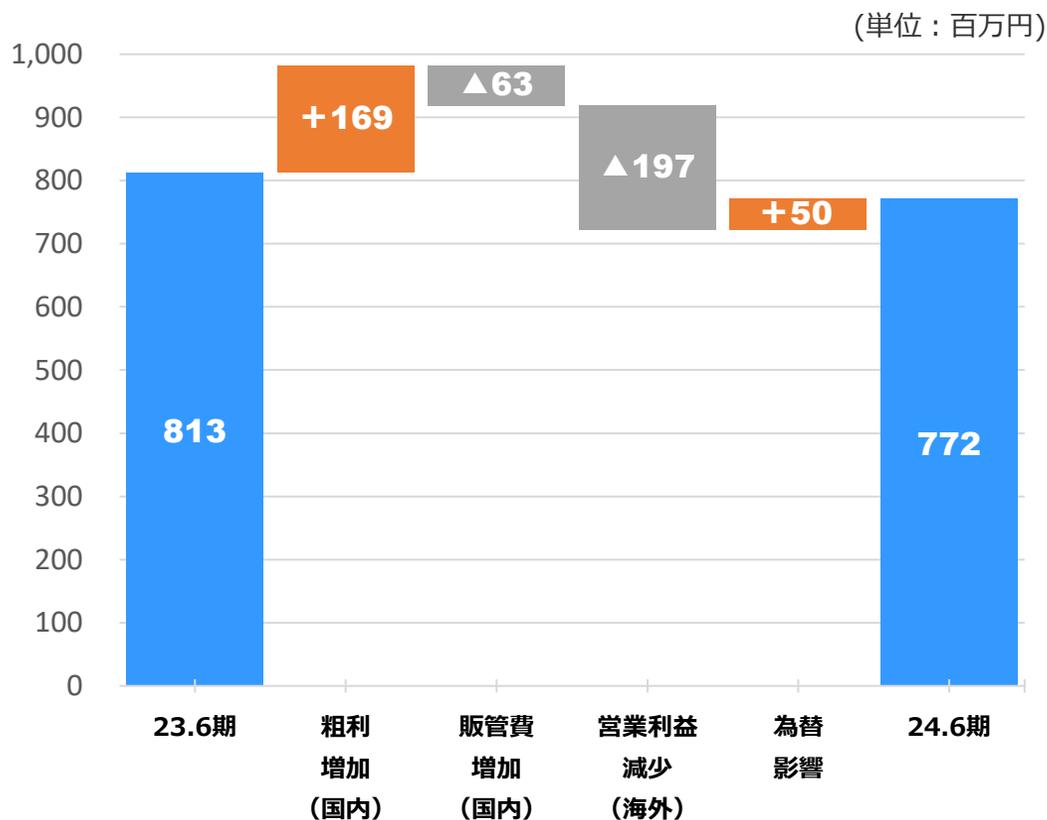
前期比△263

- 売上増の一方で、事業拡大に伴って不足しがちであったヒト・モノへの投資を集中した結果、減益。

要因別セグメント利益増減（養殖事業）

国内養殖で増産による利益増加はあった一方で、海外養殖では魚卵相場の調整や養殖コスト増の影響で利益率低下。全体としてセグメント利益は40百万円減。

セグメント利益増減



増減補足説明

粗利増加（国内）による影響

前期比 + 169

- 水揚数量の増加に伴い販売数量が増加。また、前期繰越在庫が23/6期に比べて多く、24/6期中の販売単価も高く推移したため、粗利増加。

販管費増加（国内）による影響

前期比 △ 63

- 事業規模拡大に伴う運賃、保管料等の増加の影響

営業利益減少（海外）による影響

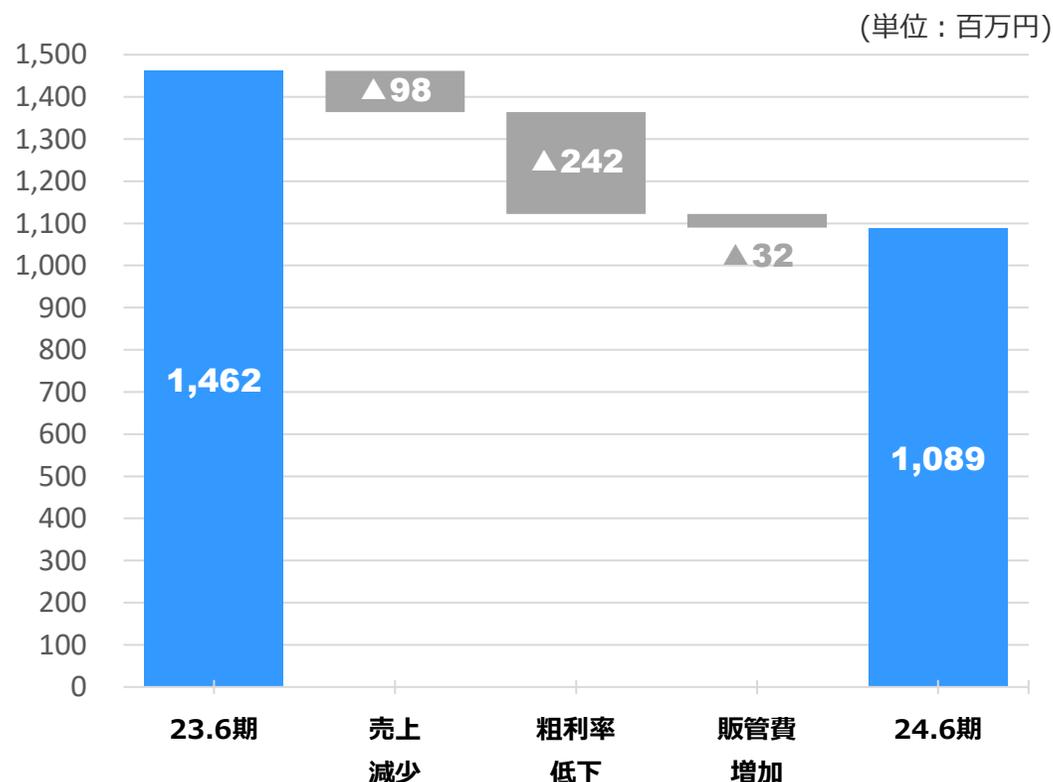
前期比 △ 197

- インフレに伴う養殖コスト増加、また魚卵では相場影響により販売価格が低下したことなどにより利益が減少した。

要因別セグメント利益増減（国内加工事業）

前期後半から魚卵相場が調整過程に入った影響や原料調達難から、売上が減少するとともに利益率が低下。当期後半以降は相場下げ止まりの兆しを見せるものの、好業績だった前期からは373百万円減。

セグメント利益増減



増減補足説明

売上高減少による影響

前期比△98

- 高騰相場からの調整局面で販売価格が低下。数量は筋子・いくら全体で伸びるも、相対的に価格帯が高いいからの販売数量が減少。価格低下の影響の方が大きく、減収。

粗利率低下による影響

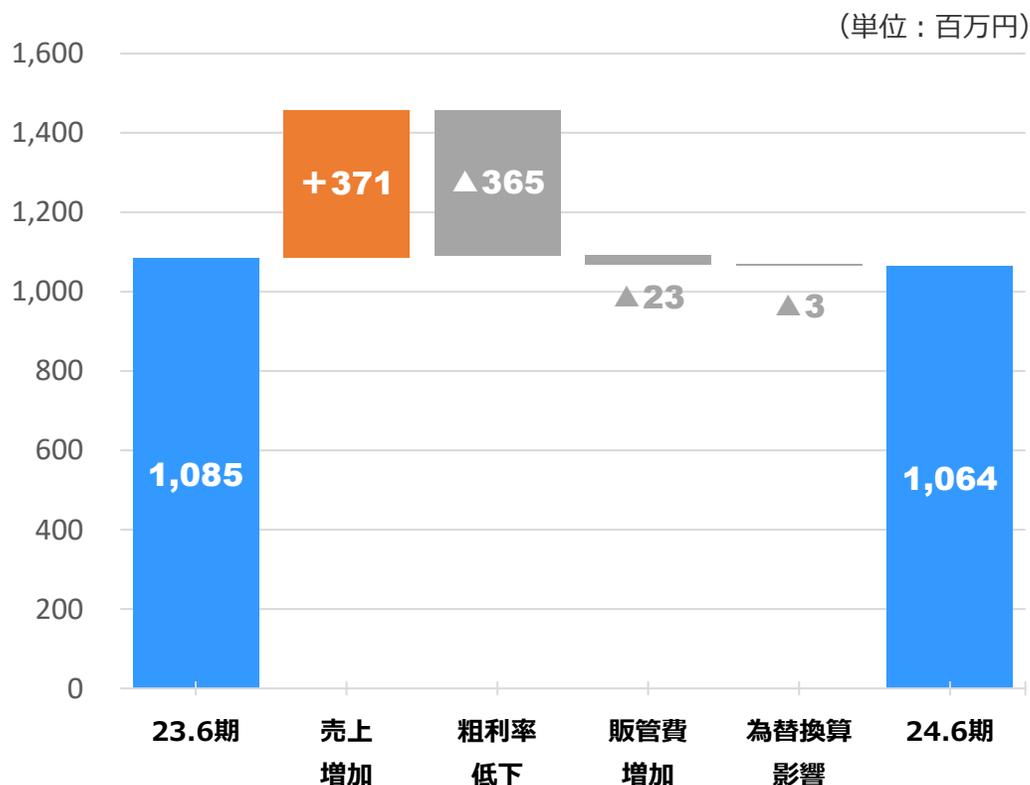
前期比△242

- 当期は魚卵相場が調整局面にあり、販売価格低下の影響で原価率（材料費・労務費・経費）が上昇し、利益率は低下。

要因別セグメント利益増減（海外加工事業）

販売価格上昇により国内外で売上は増加するも、前期に比べると原料単価の上昇を転嫁しきれず利益率は低下し、セグメント利益は20百万円減少。

セグメント利益増減



増減補足説明

売上高増加による影響

前期比+371

- 世界的にサーモン相場の高止まりが続く中、販売価格は上昇、コロナ禍後の市場回復もあり売上高増。

粗利率低下による影響

前期比△365

- 前期は相場高騰過程で値上げ先行により高利益率、想定されたよりは良かったものの前期に比べれば原料高の販売価格転嫁は十分ではなく、全体の粗利率が低下。

販管費増加による影響

前期比△23

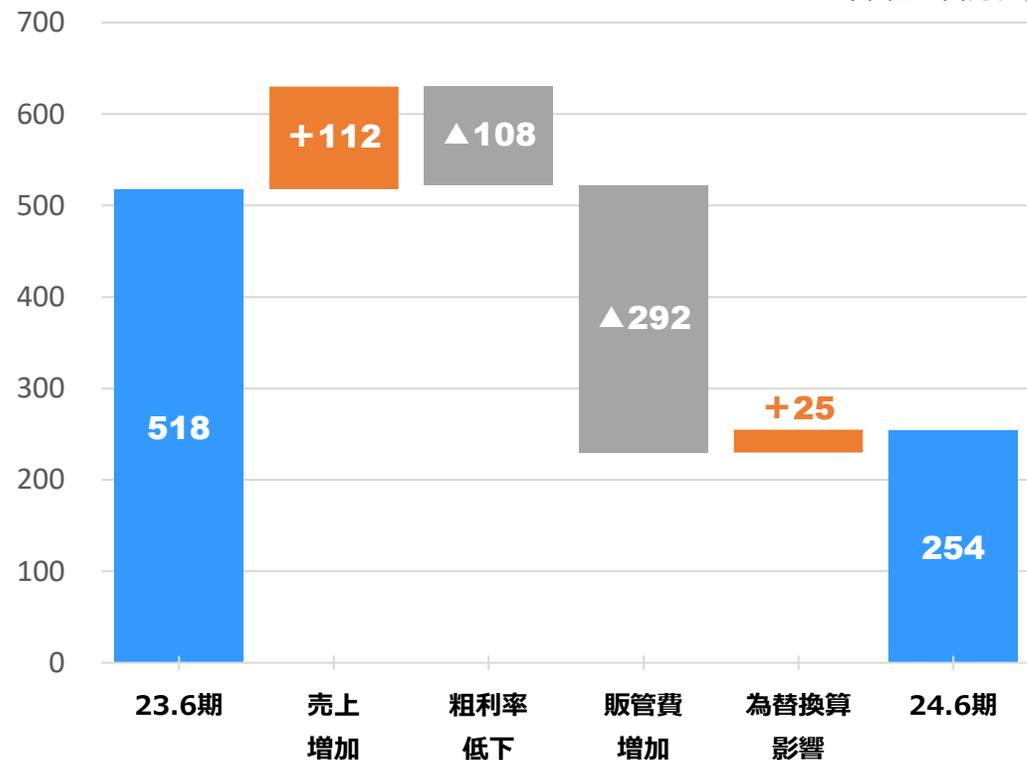
- 在庫増加に伴い倉庫関連費用などが増加。

要因別セグメント利益増減（海外卸売事業）

市場規模は引き続き拡大しており、それを背景に売上は増加。売上規模が拡大する一方で不足しがちであったヒトやモノへの投資を集中した結果、セグメント利益は263百万円減少。

セグメント利益増減

(単位：百万円)



増減補足説明

売上高増加による影響

前期比+112

- アジア市場では、引き続き需要拡大傾向が継続。

粗利率低下による影響

前期比△108

- サーモン加工工場の立上げ期の費用増加、利益率の高いスポット取引がなくなったことなどで全体の粗利率が低下。

販管費増加による影響

前期比△292

- 事業強化・拡大に伴い、不足しがちであったヒトやモノへの投資を集中。

貸借対照表 増減サマリー

(単位：百万円)

| 資産 | 2023年6月末 | 2024年6月末 | 増減 |
|-------------|---------------|---------------|--------------|
| 流動資産 | 22,581 | 29,249 | 6,667 |
| 現金及び預金 | 2,062 | 4,835 | 2,772 |
| 売上債権等 | 3,235 | 4,371 | 1,135 |
| 棚卸資産 | 14,785 | 16,855 | 2,070 |
| その他 | 2,498 | 3,187 | 688 |
| 固定資産 | 7,529 | 9,920 | 2,391 |
| 有形固定資産 | 7,049 | 9,211 | 2,162 |
| 無形固定資産 | 66 | 266 | 200 |
| 投資その他の資産 | 414 | 442 | 28 |
| 資産合計 | 30,111 | 39,170 | 9,058 |

| 負債 | 2023年6月末 | 2024年6月末 | 増減 |
|--------------|---------------|---------------|--------------|
| 流動負債 | 15,439 | 19,119 | 3,680 |
| 仕入債務 | 1,067 | 1,314 | 246 |
| 借入金 | 10,947 | 13,554 | 2,607 |
| その他 | 3,424 | 4,250 | 825 |
| 固定負債 | 4,703 | 5,899 | 1,195 |
| 借入金 | 3,422 | 4,053 | 631 |
| その他 | 1,281 | 1,845 | 564 |
| 負債合計 | 20,143 | 25,019 | 4,875 |
| 純資産 | | | |
| 純資産合計 | 9,968 | 14,151 | 4,183 |

▶ 主なトピック：養殖規模、海外卸売事業の拡大を主要因とする棚卸資産増（P. 42参照）、設備投資の進捗（P.43参照）

連結キャッシュ・フロー

| (単位：百万円) | 2024年6月期 |
|------------------|---------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 277 |
| 税金等調整前当期純利益 | 2,932 |
| 棚卸資産の増減額 | △1,681 |
| その他 | △974 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △2,339 |
| 有形固定資産の取得による支出 | △2,135 |
| その他 | △204 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 4,727 |
| 長短借入金の増減 | 3,173 |
| 新株発行による収入 | 1,974 |
| その他 | △420 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 106 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 2,772 |

補足説明

営業活動によるキャッシュ・フロー **277**

- 利益は順調に計上。
- 棚卸資産の増加がキャッシュフローを圧迫しているが、棚卸資産増加は養殖量拡大に伴う養殖仕掛品・製品の増加が多くを占める。

投資活動によるキャッシュ・フロー **△2,339**

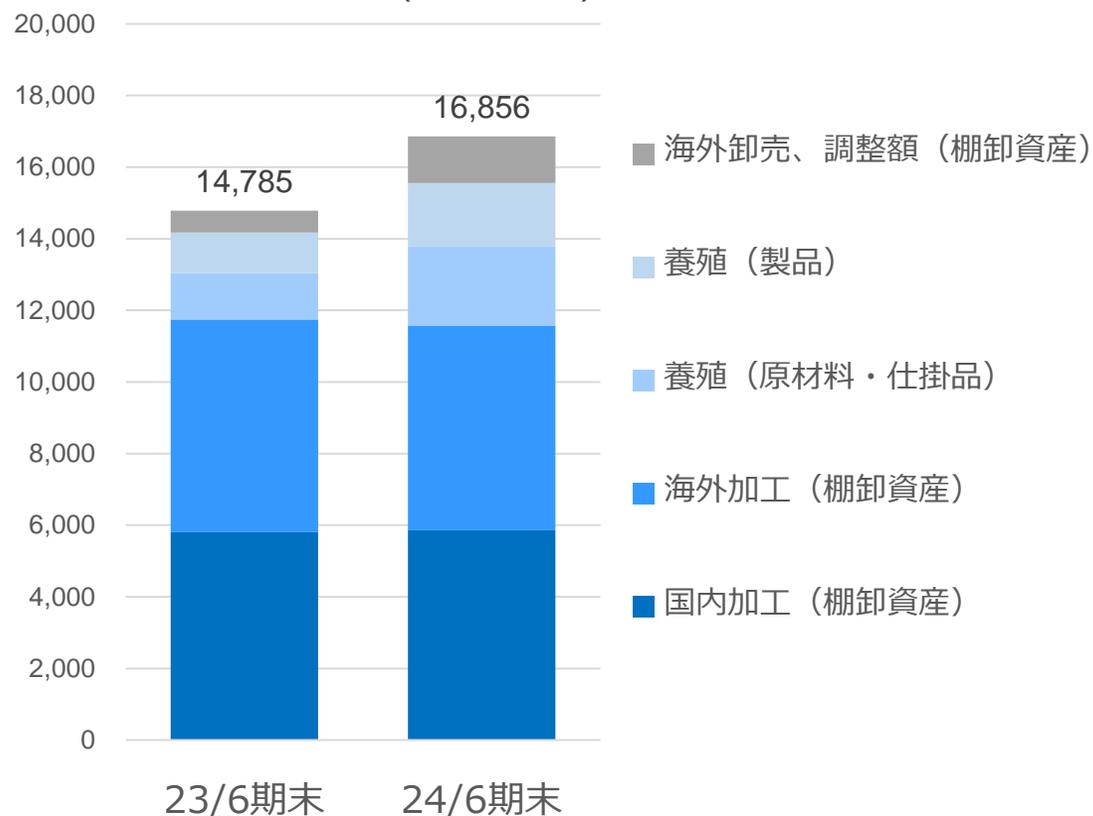
- 養殖事業拡大のためには養殖設備への先行投資が必要であり、当社では養殖量拡大に向けて養殖設備への投資を継続的に実施している。
- 当期も、青森県今別町の中間養殖場の増設をはじめ、養殖関連設備への投資が中心となっている。

棚卸資産の増減内容

主に、養殖量拡大に伴う養殖仕掛品・製品の増加により、棚卸資産は前期末より2,070百万円増加。

棚卸資産残高推移

(単位：百万円)



増減補足説明

海外卸売

前期末比+557

- 事業規模の拡大に伴い、在庫水準増。

養殖 (原材料・仕掛品)

前期末比+912

- 養殖量拡大に伴う養殖仕掛品増。

養殖 (製品)

前期末比+637

- 当期水揚量の増加により、製品在庫増。

養殖設備の状況（国内）

- 当社の成長戦略である国内養殖量の拡大に向けて、養殖キャパシティの増強、特にボトルネックとなっている中間養殖場のキャパシティ拡大が課題。
- 当期の設備投資により、養殖キャパシティは2千トンから3千トンへ拡大。
- なお、海面養殖のキャパシティは当面余裕あり。

中間養殖場のキャパシティ

3千トン

2千トン



1千トン

23.6期末

24.6期末

海面養殖量のキャパシティ

1万5千トン

1万トン



5千トン

23.6期末

24.6期末

【参考】今シーズン（2024年4～7月）の養殖水揚げ量 2,692トン
* トン数は全て当社試算による成魚換算値（概算）

株主還元

配当

| | |
|------------|-----------------------------------|
| 配当方針 | 株主資本配当率2%以上を目途に 継続的・安定的な配当に努める |
| 2024年6月期実績 | |
| 第2四半期末 | 17円00銭 |
| 期末 | 17円00銭 |
| 合計 | 34円00銭 |
| 配当金総額 | 274百万円 |

株主優待制度

| | |
|----|---|
| 目的 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 当社の事業と当社製品への理解度・知名度を向上させるため ➤ 当社株式への投資魅力を高めるため |
| 対象 | 2024年6月末日現在に100株以上を保有されている株主様 |
| 内容 | <p>当社で養殖あるいは加工した食品 (概ね5千円相当)</p>  |

Ⅲ. 2025年6月期 計画



通期業績計画サマリー

- 連結売上高は前期比34億円増の361億円を計画。主な要因は、国内養殖量増による養殖事業売上の増、市場規模拡大を背景にした海外卸売事業売上の増。
- 連結営業利益は前期比6億円増の32億円を計画。上記売上増に伴う増益。

【連結】

| (単位：百万円) | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 (※) | 親会社株主に帰属 する当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-----------------------|---------------|--------------|--------------|---------------------|----------------|
| 2024年6月期実績 (a) | 32,665 | 2,548 | 2,932 | 1,968 | 252.16 |
| 2025年6月期計画 (b) | 36,119 | 3,212 | 2,949 | 2,093 | 268.18 |
| 増減額 (b-a) | 3,453 | 664 | 16 | 134 | — |
| 増減率 | 10.5% | 26.0% | 0.5% | 6.8% | — |

※ 2024年6月期の経常利益には、為替差益355百万円（外貨建債権に関する為替差益など）が含まれている

セグメント別

| (単位：百万円) | 2024/6期 実績 (a) | 2025/6期 計画 (b) | (b-a) |
|----------------|----------------------|----------------------|--------------|
| 売上高 | 32,665 | 36,119 | 3,453 |
| 養殖 | 6,750 | 8,933 | 2,183 |
| 国内加工 | 8,279 | 8,205 | △73 |
| 海外加工 | 15,255 | 15,373 | 117 |
| 海外卸売 | 8,869 | 11,132 | 2,262 |
| 調整額 | △6,489 | △7,526 | △1,036 |
| セグメント利益 | 2,548 | 3,212 | 664 |
| 養殖 | 772 | 1,476 | 703 |
| 国内加工 | 1,089 | 1,215 | 126 |
| 海外加工 | 1,064 | 852 | △212 |
| 海外卸売 | 254 | 415 | 161 |
| 調整額 | △632 | △746 | △114 |

増減説明（営業利益）

養殖

対実績+703

- 国内養殖量は今シーズン比で8百トンの増産見込（P.49参照）。養殖事業全体では千トン超の増産を見込む。また、参考指標に基づき、サーモン価格の上昇を織り込んでおり、これによる利益率改善を見込む。

国内加工

対実績+126

- 売上は当期微減を想定しているが、23/6期の相場高騰局面で仕入れた主原料の消化が進んだことで原料簿価は低下、これが利益率改善に寄与すると想定。

海外加工

対実績△212

- 海外卸売事業の拡大に伴い、海外向け輸出は拡大を見込むが、国内においてはサーモンハラス原料の調達難から販売減を想定。またサーモン価格は上昇が見込まれるが、販売価格への転嫁はさらに困難になることを想定し、利益率は低下を見込む。

海外卸売

対実績+161

- 現在の市場規模拡大傾向は継続すると想定。24/6期に行ったヒト、モノへの集中投資も落ち着き販管費率は低下、利益率改善を見込む。

株主還元

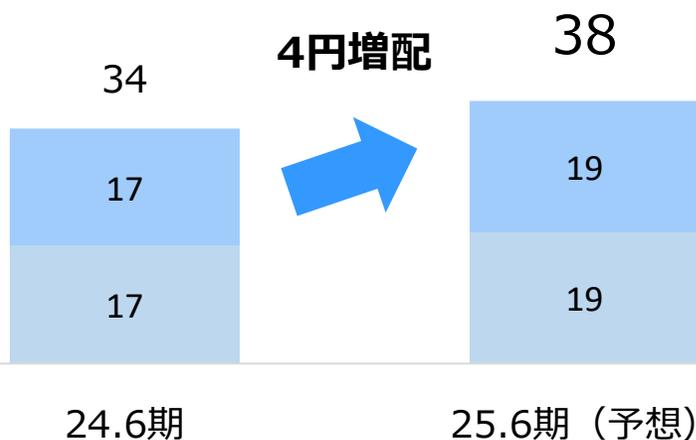
配当

配当方針

株主資本配当率2%以上を目途に継続的・安定的な配当に努める

1株当たり配当金推移 (円)

■ 第2四半期末 ■ 期末

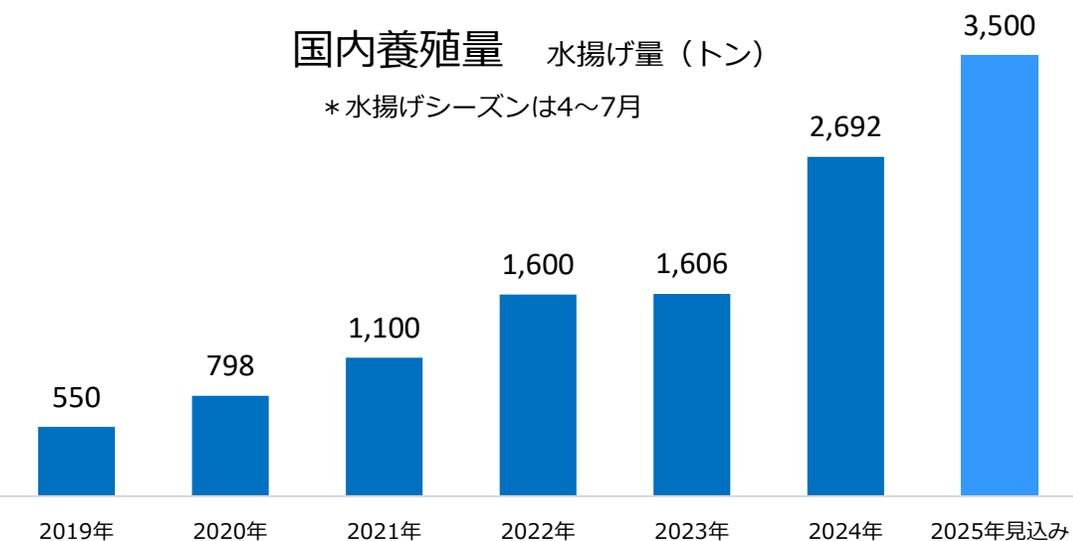


株主優待制度

継続する予定 (内容は未定)

国内養殖量計画

来シーズン（2025年4～7月水揚げ）の国内養殖量は3,500トン（今シーズン比8百トン増）の見込み。
 現在建設計画進行中の新中間養殖場は2026年6月期に稼働予定。



▼ 現在進行中の中間養殖場増設工事（泊川） ▼



来シーズン 水揚げ量 主な増加要因

- 2022年8月の被災によって使用不能となっていた中間養殖施設（青森県深浦町）の復旧
- 社外の養殖施設の利用

| | 想定中間魚 生産量（トン） | 想定成魚 生産量（トン） | 稼働見込 |
|---------------------|------------------|-----------------|----------|
| 泊川中間養殖場 （秋田県八峰町） | 250 | 1,050 | 2026年6月期 |

IV. その他の取組み

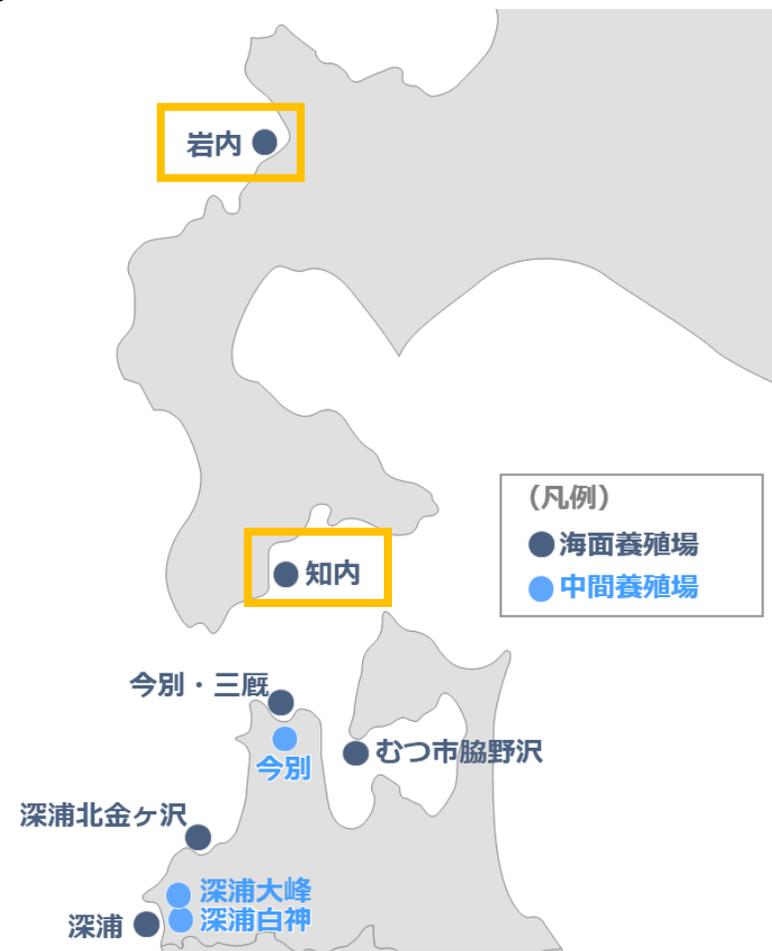


北海道での試験養殖

北海道での試験養殖を、自治体や漁協と連携しながら進めています。

<試験養殖中>

| | | |
|------------|---------|--|
| 北海道 岩内町 | 2021年2月 | 「株式会社オカムラ食品工業及び日本サーモンファーム株式会社と岩内町との包括的連携に関する協定」を締結 |
| | 2023年6月 | 初水揚げ |
| 北海道 知内町 | 2023年7月 | 上磯郡漁業協同組合・知内町・日本サーモンファーム株式会社の三者連携協定を締結 |
| | 2024年7月 | 初水揚げ |



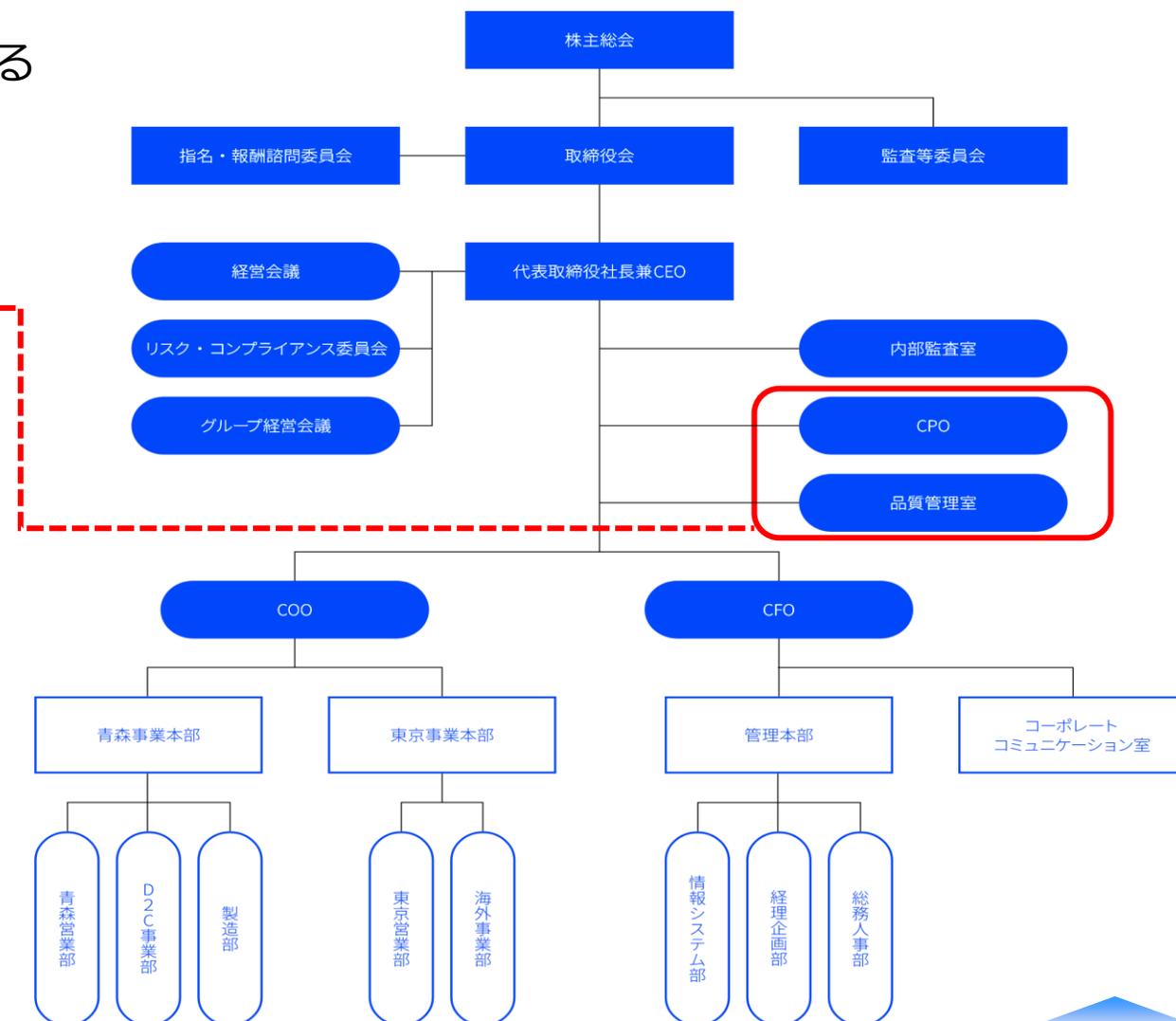
品質管理向上に向けた取組み

食品を取り扱う企業として、安全・安心・品質に対する努力を続けてまいります。



<主な取組み>

- 最高製造責任者を2024年4月に設置
- 品質管理室の組織変更と増員
- 原料購買や製品開発に関わるワークフローの見直し
- 全社員向け品質管理研修の実施



ステークホルダーとの対話の促進

当社の事業や製品を広く皆さまに知っていただくため、また、様々なご意見をいただいて企業運営の参考としていくため、ステークホルダーとの対話促進に力を入れています。

<主な取組み>

- X (旧twitter) を活用した情報発信を2024年5月末から新たにスタート (リンク)
- noteを活用したオープン社内報の発行を2024年5月末からスタート (リンク)
- 株主懇親会を2024年9月定時株主総会後に実施予定
- 株主アンケートを2024年9月定時株主総会後に実施予定



@okamurashokuhin



note.okamurashokuhin.co.jp

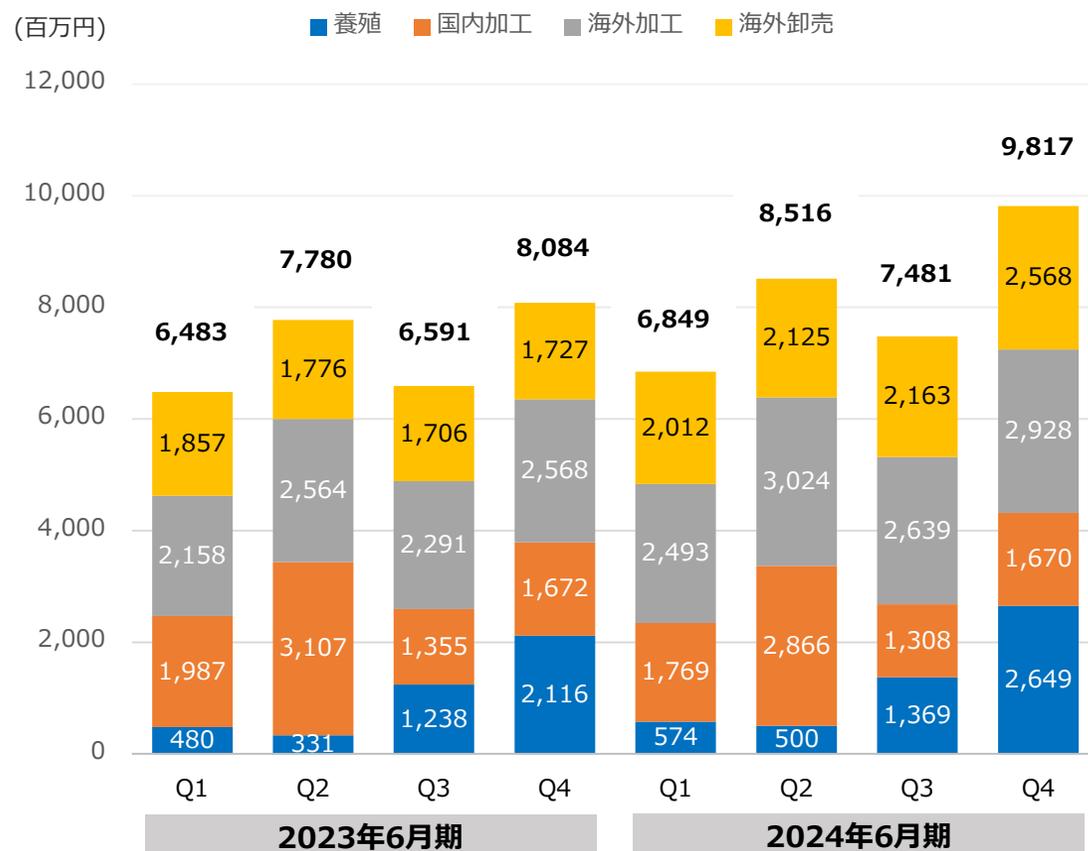


V. 参考資料



四半期ごとの季節変動について（売上高）

ロセグメント別 四半期推移（外部顧客への売上高）



<各セグメントの主な季節要因>

○養殖事業

水揚げ時期に売上が集中する傾向があります。水揚げ時期は国内養殖が4～7月（主に第4四半期）、デンマークの養殖が10～12月（第3四半期・決算日差異あり）になります。

○国内加工事業

取扱っている製品（いくら、筋子、数の子）の性格上、年末商戦（第2四半期）に売上が集中、年始はその反動で売上が落ち込むという傾向があります。

○海外加工事業

特に大きな季節要因はありません。

○海外卸売事業

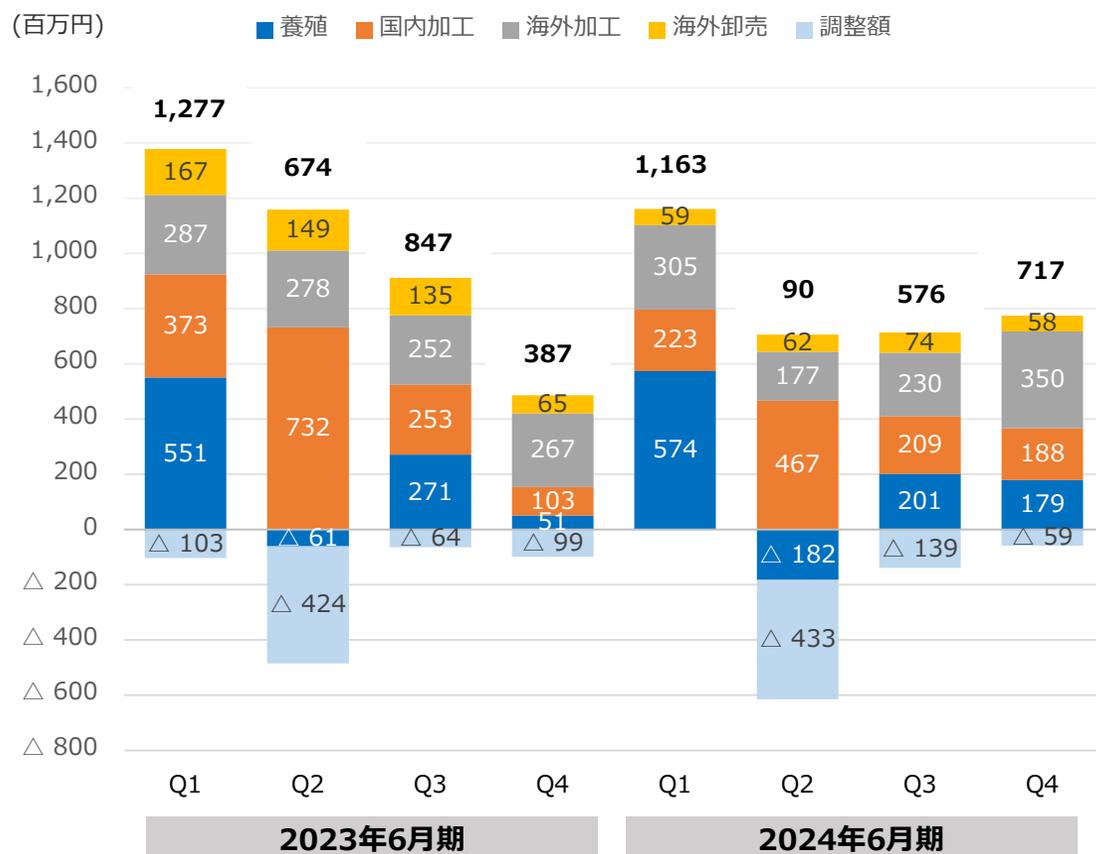
特に大きな季節要因はありません。

(注)

上記は例年における主な季節要因を説明したものです。実際の業績は他の様々な要因によって変動することをご承知おき下さい。

四半期ごとの季節変動について（セグメント利益）

□ セグメント別 四半期推移（セグメント利益）



<各セグメントの主な季節要因>

○養殖事業

Q1

国内・海外ともに水揚げ時期ではありませんが、デンマーク子会社（IFRS適用）の年間販売利益の見込額がQ1に一括で計上されます。

Q2

国内・海外ともに水揚げ時期ではないため、販売利益は少なくなる傾向があります。

Q3

デンマーク子会社の水揚げ時期にあたります。デンマーク子会社の販売利益の見積差額（実績値との差）はこの時期に多く計上される傾向があります。

Q4

国内養殖の水揚げ時期にあたります。国内養殖の販売利益はこの時期に多く計上される傾向があります。

○国内加工事業/海外加工事業/海外卸売事業

前頁参照

○調整額

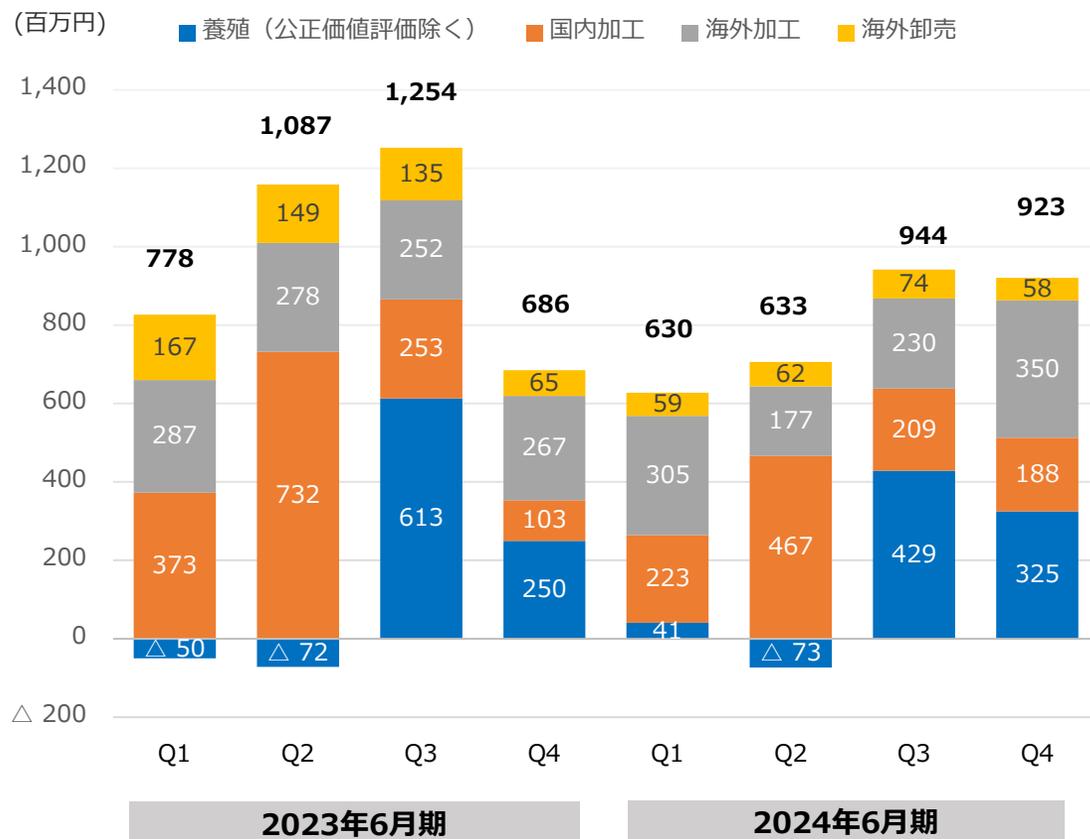
全社費用に加え、グループ内取引によって生じた棚卸資産未実現利益の控除を含みます。これはQ2に多く計上される傾向があります。

(注)

上記は例年における主な季節要因を説明したものです。実際の業績は他の様々な要因によって変動することをご承知おき下さい。

四半期ごとの季節変動について（IAS41号に基づく公正価値評価損益を除いた場合のイメージ）

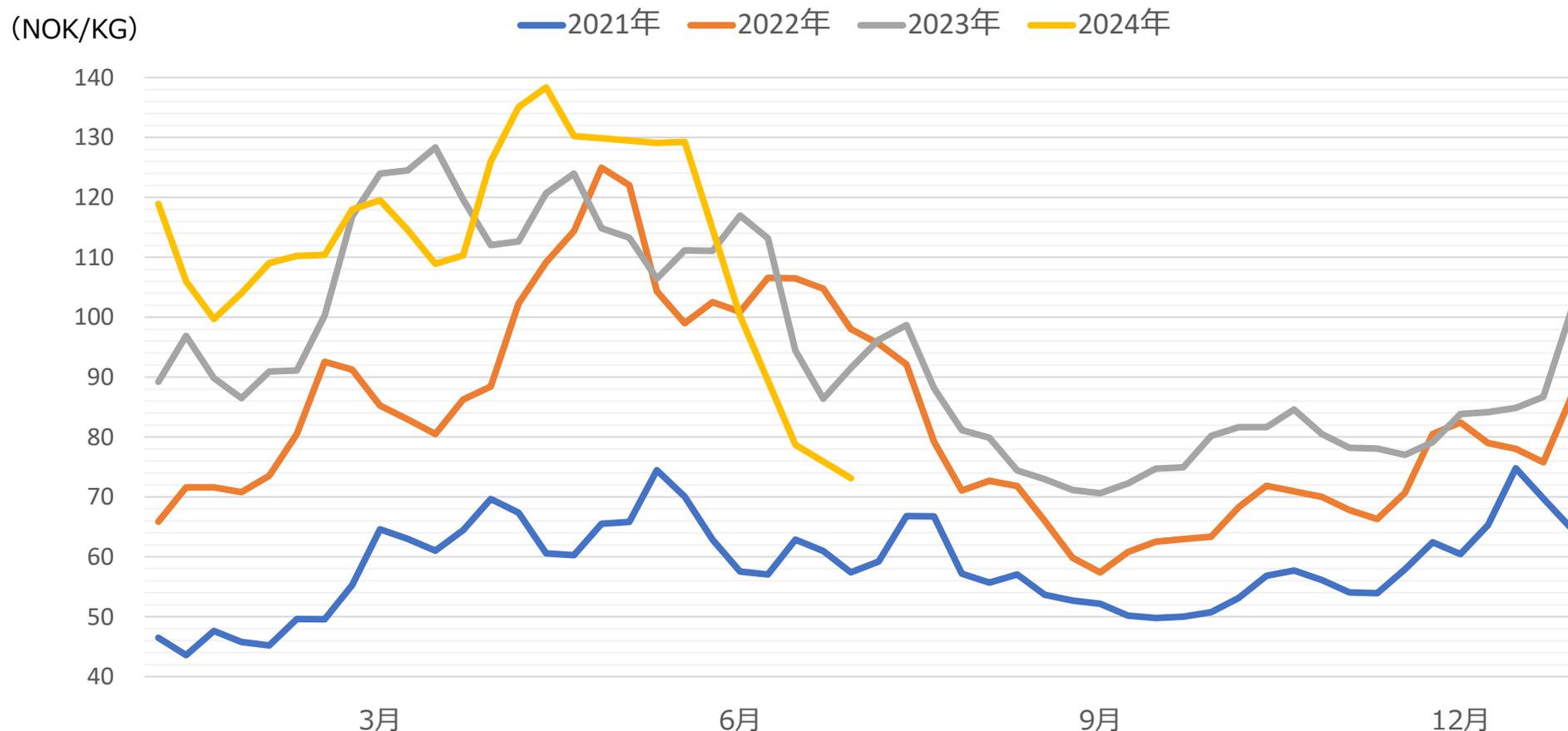
ロ セグメント別 四半期推移（調整額控除前セグメント利益）



公正価値評価損益の影響を除いた季節変動（日本の会計基準で処理した場合に近似する）は左記のとおりです。

- (注)
- セグメント利益の調整額（全社費用、棚卸資産に含まれる未実現利益の消去、など）を控除する前の数値です。
 - 左記の試算は、監査法人のレビューは受けておりません。

アトランティックサーモンのスポット価格 (Fish Pool Index)



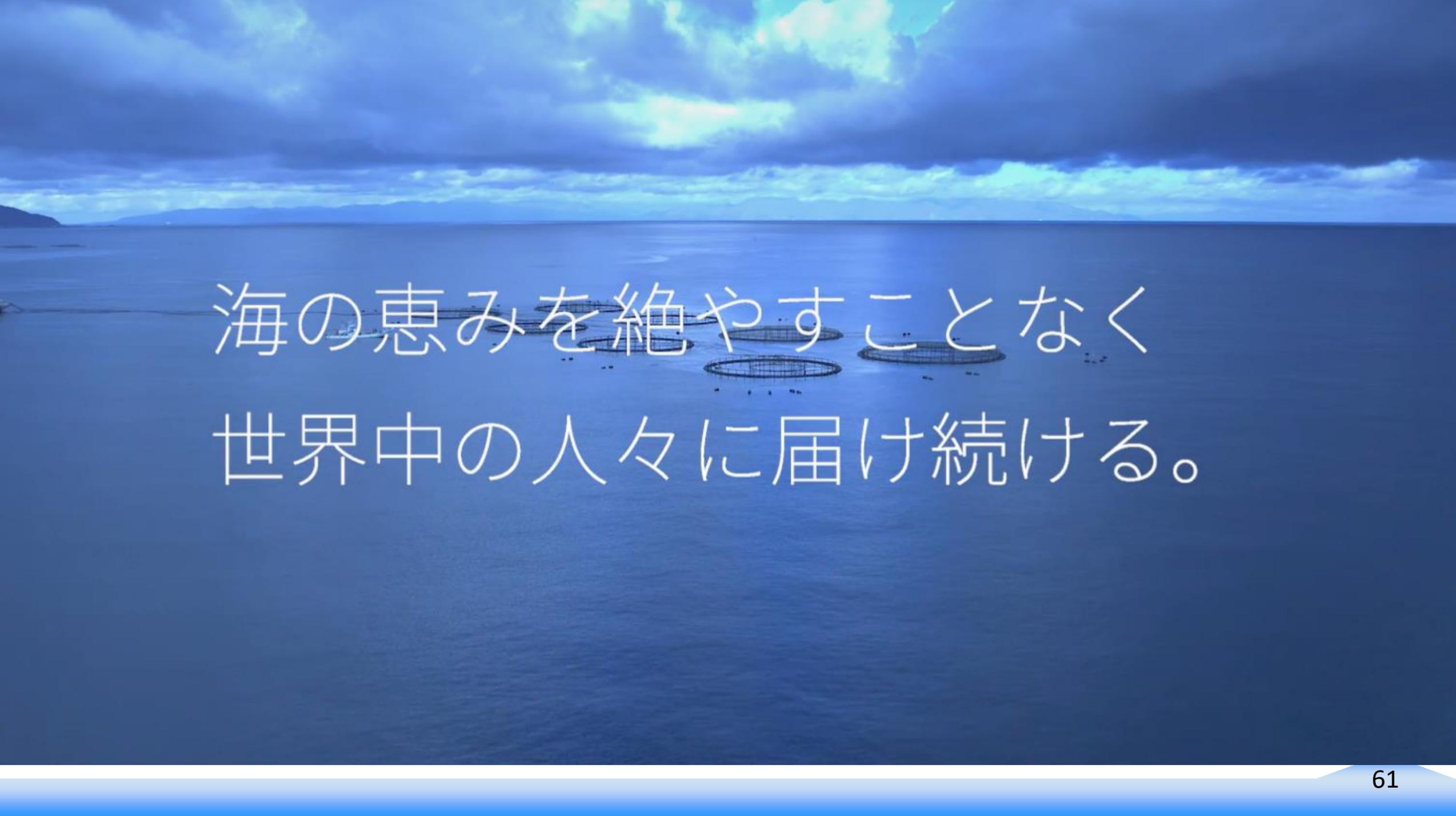
※ 上記グラフは、当社グループが養殖しているサーモントラウトとは異なる魚種であるアトランティックサーモンのオスロ市場におけるスポット価格を表示しています。サーモントラウトにはこのような指標はないため、魚種は異なるものの、当社グループでは便宜的に当指標を予算策定や市場トレンドを測る際の参考指標として利用しています。なお、実際の取引価格は国内需給や輸送コストなど様々な要因に基づいて決定されます。あくまで当指標は一参考指標としてご覧いただく必要がある点にご留意ください。

豊洲市場のいくら平均価格推移



出展) 東京都中央卸売市場・市場統計情報

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、経済動向、他社との競争状況、商品相場動向など潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化などの様々な要因により、実際の業績は言及又は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。



海の恵みを絶やすことなく
世界中の人々に届け続ける。

株式会社 **オカムラ食品工業**



青森サーモン®